

海津市地域福祉活動計画

令和6年度

地区福祉活動計画



社会福祉法人 海津市社会福祉協議会

目 次

1 地区福祉活動計画について

1. 策定の目的	3
2. 「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」との関係	3
3. 活動計画策定の流れ （問題の把握→協議・計画策定→実行→評価）	4

2 地区福祉活動計画 （10地区）

1. 計画の期間	7
2. 見直しの時期	7
3. 地区福祉活動計画（10地区）	8
① 高須地区	9
② 吉里地区	17
③ 東江地区	23
④ 大江地区	31
⑤ 西江地区	41
⑥ 今尾地区	49
⑦ 海西地区	55
⑧ 下多度地区	63
⑨ 城山地区	77
⑩ 石津地区	87

資料1 海津市地域福祉推進計画

計画の策定にあたって	100
計画の基本理念と基本理念と施策体系	102

資料2 地区社会福祉協議会

1. 地区社会福祉協議会（地区社協）とは・・・	104
2. 地区社協の役割	104
3. 市社会福祉協議会と地区社協の関係	105
4. 地区社協設立の経過	105
5. 地区社会福祉協議会連絡会	105
6. 地区社協の活動	106

第 1 章

地区福祉活動計画について

1. 策定の目的

これまで海津市では、市の施策や考え方を位置づけた「地域福祉計画」と、市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）の取組みを位置づけた「地域福祉活動計画」に基づき、3期にわたって地域福祉を推進してきました。

新しい計画である地域福祉推進計画は、社会経済情勢や市民ニーズなどの変化を踏まえつつ、複雑化・複合化した福祉課題に対応するため、市と市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）が連携を図り、実効性の高い施策を展開する必要があることから、市の「地域福祉計画」と市社協の「地域福祉活動計画」を一体化した計画です。地域福祉推進計画では、自助（自分でできること）、互助・共助（地域住民同士がささえあう）、公助（行政サービス）が連携することによって解決する取組みを基本的な考え方としています。

海津市では、市内10の小中学校区で地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という）が、互助・共助の視点に立って、地域での福祉課題や生活課題への支え合いや助け合いの活動、事業を住民主体で展開しています。

地区福祉活動計画は、地区社協が年度ごとに策定し、地域課題に対する推進方法を自助（自分でできること）、互助（地域でできること）、公助（行政や社協に依頼すること）の3つの視点でまとめ、役割分担を明確化しています。特に互助については、地区社協が重要な担い手となっており、計画に落とし込むことにより地域を構成するすべての人が、主体的に支え合い、きめ細かな仕組みづくり・地域づくりを進めることを目的としています。

2. 「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」との関係

「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」は、それぞれの課題を解決する上で相互に補完し合う水平的なパートナーの関係であり、連携連動する計画となります。

また、市社協は、地区社協の運営をバックアップし、基盤強化につながるよう地区福祉活動計画の策定、実施、評価を支援します。

3. 活動計画策定の流れ（問題の把握→協議・計画策定→実行→評価）

①地区の住民が抱えている福祉課題を明確化（問題の把握）

地区内でどのような福祉課題があるのか、地区社協の地域福祉懇談会の中で、住民や当事者、各関係団体等と話し合いの中から明らかにしました。また、必要に応じて福祉課題の把握のための調査を行いました。



②取り組む活動計画の策定（協議・計画策定）

地区社協の役員会、部会等で地区内の福祉課題を分析し、具体的な活動方法を決定しました。住民自身が解決を望んでいるもの等を整理し、“だれが” “いつ” “どのように” 取り組むのかを明らかにし、解決するための活動計画を立案しました。住民や各種団体との連携、役割分担、PR の方法等を検討するとともに、地域住民に問題を提起し、解決のために理解と協力を求めました。



③年間計画に沿った事業、活動の実施（実行）

各地区で年間計画に沿った事業を行いました。各地区社協の役員、運営委員、部会員など、住民主体で活動を行いました。



④事業の見直し（評価）

地区社協において、活動計画に基づき事業が実施されていますが、その事業の日常的かつ継続的な点検及び評価が必要不可欠です。点検及び評価をすることで、事業を見直すきっかけになり、新規事業の掘り起こしにもつながります。さらに、「地域福祉活動計画」の評価にも有効なものになります。年度末には事業の見直しを行い、次年度の事業の計画を策定します。

第 2 章

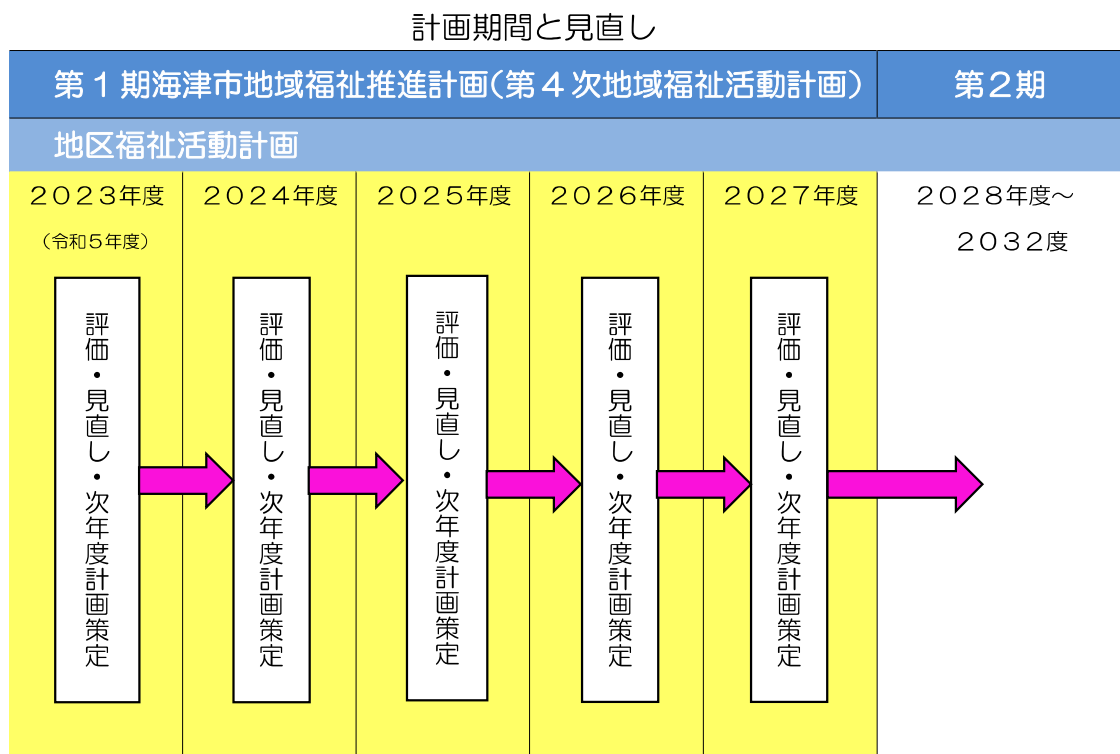
地区福祉活動計画（10地区）

2 地区福祉活動計画（10地区）

1. 計画の期間

「第1期海津市地域福祉推進計画」（第4次海津市地域福祉活動計画）は、2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間です。

「地区福祉活動計画」は、福祉課題によりきめ細やかな事業を行えるよう、計画の評価・見直し・計画策定を、毎年度行っていきます。



2. 見直しの時期

見直しは、年度末（2月～3月）に行い、次年度の計画に反映させます。

3. 地区福祉活動計画（10地区）

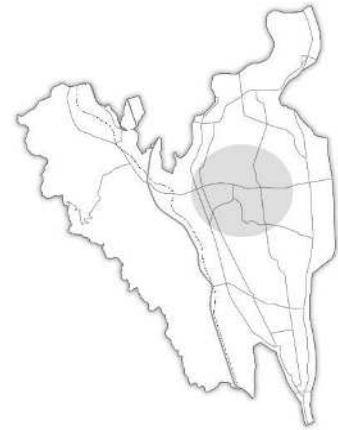
市内10地区における「令和5年度地区福祉活動計画評価表」と、「令和6年度地区福祉活動計画」を掲載します。

1

高 須 地 区

【スローガン】

地域の交流を促すために
地域の輪を広げる



【高須地区の人口】

	海津市		高須地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	6,734人	5,568人
対人口比	100.0%	100.0%	17.1%	17.5%
年少人口	5,187人	2,783人	967人	471人
年少率	13.2%	8.7%	14.4%	8.5%
高齢者人口	8,494人	11,526人	1,307人	1,921人
高齢化率	21.6%	36.2%	19.4%	34.5%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	584人	980人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	8.7%	17.6%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【高須地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所	高須認定こども園		岡田医院
海津市海津図書館	子育て支援センターかいづ	海津小学校	おおや内科循環器科
海津市市民プール	発達支援センター「くるみ」	日新中学校	小坂井レディースクリニック
海津市消防署	児童発達支援事業所みらい	海津明誠高等学校	とみなり整形外科
海津市OCT文化センター	海津市はばたき (生活介護) (就労継続支援B型)		河村歯科クリニック
海津市歴史民俗資料館			高須歯科
海津総合福祉会館「ひまわり」	デイサービスおひさま		田中歯科医院
海津警察署	地域密着型特別養護老人ホーム たかすの華		水谷歯科クリニック
海津郵便局	オレンジ・ハート (デイサービス) (有料老人ホーム)		ひなた在宅クリニック
	オレンジ・ライフ (デイサービス)		
	からふる庭園(有料老人ホーム)		

令和5年度 高須地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域の交流を促すために、地域の輪を広げる
重点課題		地域のふれあいの活動の機会を逃さず、活動につなげる
事業名	推進方法	評価
ブロック活動		
Aブロック	「地域あいさつ運動」を各自治会において「交通安全街頭啓発巡視」の日に合わせて実施し、挨拶や見守りの声掛けを通して住民同士のコミュニケーションを図る。	○
Bブロック	サツマイモの苗植え、収穫により、三世代交流を深める。各自治会長が集い、話し合い、解決方法を見出していく。	○
Cブロック	自治会長や、福祉関係の役員の連携を強化する。人と人とのつながりをしっかり作り、心ある人の結集を図る。困りごとを掌握し、小さなお手伝いにつなげる。具体例を共有する。	○
Dブロック	ラジオ体操。クイズ大会などの三世代交流イベント。	△
Eブロック	三世代交流の他、ブロックの課題を見つけ活動につなげていく。Eブロックは範囲が広いことと、新しい人たちの転入も多いため、地域に対する温度差を横のつながりで無くしていきたい。	○

現状及び今後の方針		
ブロック活動		
Aブロック	○地域あいさつ運動（原則として月1回） ・のぼり旗を掲げて、朝の登校時のあいさつと見守り活動を月1回行った。自治会に呼びかけて、活動の輪を広げようとしたが、十分な協力は得られなかった。 ○世代間ふれあい交流～ウォーキング大会～ ・慎重にウォーキングコースを選定した。天候に恵まれて多くの参加者が得られた。	
Bブロック	○あいさつ運動（7/21～30、12/21～31） のぼり旗を地域内に掲げて、住民に周知するとともに、あいさつすることを意識づけることが期待される。	
Cブロック	○親子で地区内ピカピカとゲーム ・世代間交流をめざして、ゲーム大会や体操を行った。多くのゲームを用意した。参加者は楽しむことができた。	
Dブロック	○あいさつ運動（12月） 会場の都合でレクリエーション大会は実施できず、あいさつ運動を行った。	
Eブロック	○三世代ふれあい食堂 食事づくり、ゲームで交流し、マジックを鑑賞した。子どもには盛り上がった。 ○防災講座（「能登半島地震から学ぶ」） 防災講座を開催し、防災について話し合い防災意識を見直した。 ○福祉懇談会 福祉活動について話合った。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 高須地区福祉活動計画評価表

スローガン	地域の交流を促すために、地域の輪を広げる
-------	----------------------

重点課題	部会活動の内容の把握と具体化
------	----------------

事業名	推進方法	評価
部会活動		
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長に対しての勉強会等（広報）	○
防犯防災部会	防災に対し、少しでも役立つ行動。 消防署職員による講習。（例）応急手当・仮設便所の設営・タンカーの作り方	○
生活支援部会	①「ちょボラ部活動」への支援 ②「ふれあいサロン」の運営。人と人とのふれあいの機会の創造。「いきいきクラブ」とのコラボなど。 ③民生委員児童委員など、地域の福祉にかかわる団体の活動内容の分析を行い、部会としての実践内容を検討する。 ④「ちょボラ部活動」の実践、継続。	○
イベント交流部会	地域の伝統行事に関する祭りの開催、もしくは夏祭りへのブース参加など。	○

現状及び今後の方針		
部会活動		
総務部会	・組織、規約の問題点の検討は来年度に持ち越す。 ・拠点が決定し、オーナーと契約を進めている。 ・挨拶運動強調月週間を設けて、実施する予定である。 ・小さな親切運動は5件ほど表彰する予定。 ・役員の視察研修を予定している。	
防犯防災部会	・避難情報マップ(避難カード)を作成した。 ・日頃から防災への意識啓発が重要である。参加者の確保が難しい。	
生活支援部会	①ちょボラ部をサポートしていく。 ②広域サロンの開催を予定している。 ③会議の日程調整・案内方法や世話人の選任に時間がかかった。	
イベント交流部会	・一人暮らし高齢者のための交流会が対面方式で開催できた。次年度も計画する。 ・部会ではなく各自での参加になった。 ・貴重な経験(風船飛ばし等)となった。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域のふれあいの活動の機会を逃さず、活動につなげる
----------------	----------------------------------

事業名	
Aブロック	①地域あいさつ運動 ②ハイキング大会
Bブロック	①あいさつ運動 ②世代間交流事業
Cブロック	①福祉懇談会 ②世代間交流事業
Dブロック	①世代間レクリエーション（クイズ等） ②ラジオ体操
Eブロック	①世代間健康運動（ラジオ体操） ②地区懇談会

地域の課題（背景）	
Aブロック	地域あいさつ運動や単発的なハイキングに終わらせることなく、地域の人たちが子育てについて気軽に話することができる風土をつくりたい。
Bブロック	各自治会において問題点について話し合った。消防団員など委員の引き受け手が不足している。住民たち地域のつながりを維持したい。
Cブロック	集まる機会が少なく、孤立化が増えている。住民のつながりが弱くなり、状況がつかめない事態が進んでいる。
Dブロック	ITデジタル化、情報化、また人口減少や高齢化が進み、社会の流れについていけず、置き去りにされがちである。隣人同士のコミュニケーションの希薄化がみられる。
Eブロック	育成会（子ども会）の活動がなくなり、子育て世代の福祉への関心が薄れている。福祉＝高齢者のイメージが強いが、誰にでも関係があることを伝えていきたい。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
Aブロック	「地域あいさつ運動」を各自治会において「交通安全街頭啓発巡視」に合わせて実施し、あいさつや見守りの声掛けを通して住民同士のコミュニケーションを図る。
Bブロック	あいさつ運動や世代間交流を具体化し実現する。各自治会長が集い、話し合い、解決方法を見出してできることを実践していく。
Cブロック	自治会長や福祉関係の役員の連携協力を強化する。困りごとを把握し、小さな助け合いにつなげる。心ある人の結集を図り、具体的事例を共有し支援する。
Dブロック	住民が孤立しないようつながりの機会をつくっていく。ラジオ体操、クイズ大会などの世代間交流イベントの確実な実現を図る。
Eブロック	世代間交流のほか、ブロックの課題を見つけて活動につなげる。地域が広く、転入者も多いので、横のつながりを通して地域の温度差を無くしていく。

自助(自分でできること)	
Aブロック	福祉活動に関心を持ち、自分でできることから取組み、参加する。
Bブロック	住民の声を聞く。役員同士がこまめに交流を行う。
Cブロック	隣近所や親しい人への声掛け、小さなお手伝いを実践する。
Dブロック	福祉活動に関心を持ち、近所とのコミュニケーションをとる。
Eブロック	福祉活動に関心を持ち、自分ができることに参加する。また近隣にも声を掛ける。
公助（行政や社協に依頼すること）	
Aブロック	円滑な福祉活動を持続するためのシステムづくり
Bブロック	福祉活動に関する役割分担を明確化して、負担の軽減につなげる。
Cブロック	連携の推進方法での協力と予算面での援助
Dブロック	無理のない活動を持続するための仕組みづくり
Eブロック	無理のない活動を維持するためのシステムづくり

令和6年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	高須地区全体を見渡す視点で課題を見つけ出し、活動につなげる
----------------	-------------------------------

事業名	
総務部会	①組織・規約の問題点の見直し ②あいさつ運動（7月,12月） ③小さな助け合い運動 ④研修会 ⑤地域福祉活動計画の推進
防犯防災部会	防災・減災に役立つ活動 ①避難者カードの作成 ②交通安全運動の促進 ③防犯に関する啓発
生活支援部会	①サロン活動の普及・助言・協力 ②子育て支援活動や地域助け合い活動の普及等 ③地域の枠を超えた活動（ネットワーク、サロン） ④ちょぼら部への協力・助言
イベント交流部会	地域の活性化を図る活動 ①高須地区の歴史文化祭り等の行事 ②夏祭り・盆踊り大会 ③ひとり暮らしのつどい ④国民文化祭への協力

地域の課題（背景）	
総務部会	①地区社協、部会、ブロックやその仕組みについてわからない人、知らない人、誤解している人が少なくない。 ②活動の内容や理由も周知されていない。
防犯防災部会	①昨年度は避難者カードの作成が途中で終わった。 ②他の防犯防災活動もおそろかにできず、取り組む必要がある。
生活支援部会	①要支援者に対する日常的なケアが重要である。 ②住民の孤立・孤独を和らげる事業が必要不可欠である。
イベント交流部会	①ようやく一人暮らし高齢者の交流会が対面方式で開催できるようになった。 ②社会の情勢に応じて、人と人が交流できる場をつくるよう努めたい。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長に対しての学習会（広報を兼ねる）
防犯防災部会	防犯防災に役立つ活動、消防署員による講習（応急手当・仮設トイレ・タンカー）
生活支援部会	①ちょぼら部との協力 ②広域サロンの開催 ③他の関連団体との連携
イベント交流部会	地域の伝統行事に関する祭りの開催、夏祭りへのブース参加

自助(自分でできること)	
総務部会	開かれた話し合い
防犯防災部会	社会的弱者（高齢者、子ども）への積極的配慮
生活支援部会	向こう三軒両隣、親しい人への見守りと声掛け
イベント交流部会	福祉活動に関心を持つ

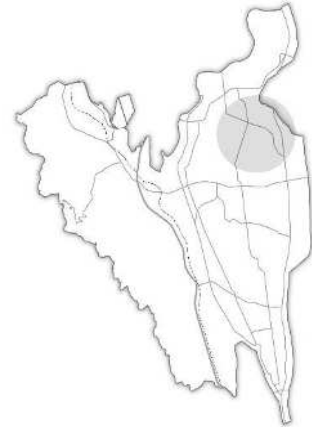
公助（行政や社協に依頼すること）	
総務部会	十分な参考資料の提供、適切なアドバイス
防犯防災部会	自治会と緊密につながって活動できるためのシステムの構築
生活支援部会	福祉活動団体の活動内容の整理と合理的な仕分け
イベント交流部会	企画へのアドバイスと協力、活動費の援助

2

吉里地区

【スローガン】

絆を深める吉里



【吉里地区の人口】

	海津市		吉里地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	1,965人	1,552人
対人口比	100.0%	100.0%	5.0%	4.9%
年少人口	5,187人	2,783人	223人	139人
年少率	13.2%	8.7%	11.3%	9.0%
高齢者人口	8,494人	11,526人	431人	580人
高齢化率	21.6%	36.2%	21.9%	37.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	209人	288人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	10.6%	18.6%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【吉里地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
吉里郵便局	わかば海津北こども園		
	吉里地区社協事務所		
	あいさんハウス・ぎふ (共同生活援助) (生活介護) (短期入所) (就労移行支援) (就労継続支援B型) (放課後等デイ)		

令和5年度 吉里地区福祉活動計画評価表

スローガン		
絆を深める吉里		
重点課題	たくさんの方にサロンに参加してもらえようにする	
事業名	推進方法	評価
サロン吉里の充実	①参加者について ・自治会ごとでサロン当番の割り当てを決める。 ・集う会等計画した事業において参加者の送迎を検討し、参加しやすい環境を整える。 ・集会所等の身近な場集える機会を作る。	△
	②ボランティアについて ・サロン通信でボランティアの募集を継続的に行う。 ・ボランティアの活動内容をサロン通信で具体的に紹介する。	○
	③活動内容の充実について ・小学校からのクラブ活動の講師派遣要請に応える。 ・小学生との交流活動を継続的に行う。 ・今年度で小学校が閉校となるので地区社協としても何か協力できないか検討していく。	△
現状及び今後の方針		
・サロンに参加された方は、楽しそうに過ごしていたので良かった。 ・吉里小学校最後の年であり小学校との交流を積極的に行い、今年度7回の交流を行い大変良かったと思う。 ・小学校が統合で廃止になるので、小学校との交流がなくなるので代替案が必要。 ・小学校閉校で学校との関わりがなくなるのは大変さみしい。今後、日曜日のサロン開設日を設け、土曜、日曜に子ども達が集えるような遊びや学びの場を検討していくとよいのではないかと。 ・子ども達が気軽に集える場所提供の1つとしてのサロン吉里になると良い。（特に長期の休みの時） ・なかなか参加してもらうことに抵抗を感じているようで、できるだけ声掛けをして一人でも多くの人に参加してもらえようようにしたい。 ・一人ひとりが（役員の）両隣や近くの人に声をかけ、ひとりが一人以上仲間を誘ってサロンに参加する。 ・今、サロンに参加している人が声を発して、仲間を増やす。 ・高齢者と同居している家族は、送迎に協力していただきたい。 ・サロン当番になっている方は、年に1回でも参加してほしい。 ・まだまだコロナ感染が怖くてコロナ前には戻れないと思う。 ・高齢者の近隣同士の付き合い等が希薄であり、地区サロンの参加をされる方が少ない。また、コロナやインフルエンザ等の感染症の禍で、集団で集まるリスクが高いことから、地区サロンを存続することが難しいと思う。市及び市社協等が主導で、市全体として考えたらよいと思う。 ・サロンに参加するのは特定の人だけ。自治会で一人ひとりにサロンの当番をお願いしたらどうか。 ・会社勤務の人がサロン当番を行うのは難しいので、何か別の方法で貢献できたらと思う。 ・平日、仕事を持つ者の参加は厳しい。 ・参加者増加につなげる対策が必要ではないか。 ・自治会の当番割り当てに協力してもらえよう呼びかけてもらいたい。		

令和5年度 吉里地区福祉活動計画評価表

スローガン	絆を深める吉里	
重点課題	地域住民で高齢者への声かけをする	
事業名	推進方法	評価
高齢者への声かけ、見守り活動	①サロンに参加できるように働きかける。 ・サロン通信に活動写真を掲載し、サロンの魅力を伝える。	○
	②高齢者への見守りや声かけをする。 ・各自治会と連携し、見守り体制の充実を図る。 ・高齢者に声かけを行い、サロンで活躍できる場をつくる。 ・役員だけではなく、地域全体で取り組んでいけるよう協力を求める。 ・自治会で集会所などを利用して身近な通いの場をつくる。	△
現状及び今後の方針		
・今回地域のの人を誘い、参加してもらえた。どんな雰囲気かを知ってもらえた。 ・本年度もサロンに集う会（ひとり暮らし高齢者）にプレゼントを配った。喜ばれたと思う。 ・日比野疲れの休息の優先でなかなか周りに目を向けられず、自分の体調を整えないといけない。 ・昨年もコロナとインフルにより、なかなか集まりの状態が良くなかった。対策をしながらも、少しずつ活動をしていきたい。 ・長くサロンに来ていただいている方は毎回来て楽しく過ごして見える。来ていただける方が友達を誘っていただけると良い。 ・田中自治会では、取りまとめをしていた方がいなくなり、サロン活動がなくなった。作ってほしいとの声は聞いている。 ・高齢者の近隣同士の付き合い等が希薄であり、外へ出て何か参加をする気力というか集団での付き合いが薄い気がする。 ・サロンに参加するのは決まった人だけ。若い人に協力を求める。 ・高齢者の声掛け、見守り活動の方法を記載した資料があるとよい。 ・自治会として、高齢者への声掛け、見守り活動について推進できていない。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 吉里地区福祉活動計画

重 点 課 題	たくさんの方にサロンに 参加してもらえるようにする。
事業名	
サロン吉里の充実	
地域の課題（背景）	
・参加者、ボランティアが固定化されつつある。 ・地域が一つになって何かを創り上げる様な活動が少なく、人との関係が希薄になってきている。 ・参加者が高齢化し、施設入所などの理由で減少し参加意欲が低下してきている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①参加者について ・自治会ごとでサロン当番の割り当てを決める。 ・集う会等計画した事業において参加者の送迎を検討し、参加しやすい環境を整える。 ・集会所等の身近な場に集える機会を作る。 ②ボランティアについて ・サロン通信でボランティアの募集を継続的に行う。 ・ボランティアの活動内容をサロン通信で具体的に紹介する。 ③活動内容の充実について ・海津小学校からのクラブ活動の講師派遣要請があればいままでどおり応える。 ・吉里小学校は閉校してしまったが、地区内の児童との交流活動を検討する。	
自助(自分でできること)	
・積極的にサロンに参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・出前講座の依頼。 ・先進地等の情報提供。	

令和6年度 吉里地区福祉活動計画

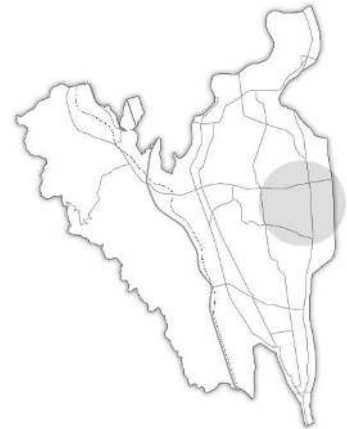
重 点 課 題	地域住民で高齢者への声かけをする
事業名	
高齢者への声かけ、見守り活動	
地域の課題（背景）	
・地区社協役員だけでの見守りには、限界がある。 ・高齢化が進み、人と会うことがおっくうになり、会話をする機会が少なくなっている。 ・サロンに行く移動手段が少ない。 ・コロナの影響で家に閉じこもりがちになっている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①サロンに参加できるように働きかける。 ・サロン通信に活動写真を掲載し、サロンの魅力を伝える。 ②高齢者への見守りや声かけをする。 ・各自治会と連携し、見守り体制の充実を図る。 ・高齢者に声かけを行い、サロンで活躍できる場をつくる。 ・役員だけではなく、地域全体で取り組んでいけるよう協力を求める。 ・自治会で集会所などを利用して身近な通いの場をつくる。	
自助(自分でできること)	
・近隣高齢者等に声をかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

3

東江地区

【スローガン】

つ長良まいか
心と心のまち 東江



【東江地区の人口】

	海津市		東江地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	2,024人	1,620人
対人口比	100.0%	100.0%	5.1%	5.1%
年少人口	5,187人	2,783人	274人	132人
年少率	13.2%	8.7%	13.5%	8.1%
高齢者人口	8,494人	11,526人	436人	559人
高齢化率	21.6%	36.2%	21.5%	34.5%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	215人	282人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	10.6%	17.4%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【東江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
東江警察官駐在所	東江こども園		歯科加藤医院
東江郵便局			

令和5年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン つ長良まいか 心と心のまち 東江		
重点課題	東江地区社協活動の情報が行き届いていない	
事業名	推進方法	評価
東江地区社協普及啓発	①東江地区社協だよりを発行 ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。 ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。 ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。 ・地区全体に周知するため全戸配布する。 ・編集作業に負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。	×
	②東江地区社協の啓発用品を活用 ・身近にある住民が必ず寄る場所（ゴミステーションなど）に設置された掲示板を有効に活用し、地区社協や地域の行事をお知らせしたりして、情報を提供する。掲示板から提供された情報が、住民同士の会話のきっかけとなるように、タイムリーな情報を掲示する。 ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用を再度お願いす	×
現状及び今後の方針		
①コロナ禍の影響もあり、計画的に事業、行事が実施できなかったこと、また、担当がすべての事業、行事に参加することが難しかったこともあり、発行できなかった。編集の負担も大きいため、記事、写真等のデータの提供や編集作業への協力をいただきたい。今後は、サロン通信と合わせて発行していきたい。 ②地区に設置した啓発用の看板の使用ができていない。自治会を通じて、看板の活用を再度お願いしていく。自治会単位の情報は、広報や回覧板ではできているところもあるが、地区全体の情報発信ができていない。		
重点課題	高齢者への見守りが不十分である	
事業名	推進方法	評価
高齢者の安全確保	①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り ・75歳以上、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。 ・2月に高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。 ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。 ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。	○
	②生活安全教室 ・11月に交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。 ・海津警察署の協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。 ・悪質商法などを消費生活講座で学ぶ。	×
現状及び今後の方針		
①自治会ごとに自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員など、関係者で見守りを行った。高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」は小学校の閉校行事もあり、開催しなかったが、年末に見守り訪問を行った。今年はお菓子を配布し好評であった。 ②小学校の閉校行事に協力したため、安全教室としての開催はしなかった。平素からの見守り体制は、今後も継続していきたい。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン		つ長良まいか 心と心のまち 東江	
重点課題		子どもの登下校が危険である	
事業名	推進方法	評価	
子どもの見守り	①東江地区子ども見守り隊 ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域住民が協力して見守り活動に参加する。 ・東江地区社協が主体になり、地域住民に見守りを呼びかける。 ・登下校の時間帯以外でも、畑仕事や散歩しながらでも、気軽に見守り活動に参加していただけるよう工夫する。（車の中にベストを吊るすなど） ・見守り活動の際には、防犯の啓発も兼ねて見守りベストを着用し活動する。また、必ず見守りベストを着用するように周知する。 ・見守り活動への参加（ボランティア）を更に周知する。	○	
現状及び今後の方針			
①地域により温度差はあるが、農作業をしながら、ゴミ出しをしながら等、小学校、地域ボランティアと協力し登下校の見守りを行った。東江小学校が閉校となる次年度以降は、海津小学校からの要請により、見守りの体制を整えていく。			
重点課題		世代間のつながりが乏しい	
事業名	推進方法	評価	
世代間交流事業	①「親子・地区運動会」の実施協力 東江地区社協が中心となり、東江小学校やPTA役員と連携して地域種目を企画・運営する。 ・地域住民に地域種目への参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。	○	
	②「みんなでラジオ体操」の実施 ・夏休みの子どもたちが行うラジオ体操に、地域住民を巻き込んで実施する。 ・ラジオ体操後は、みんなで運動場や小学校舎周辺の草取りをする。 ・健康増進をはかるとともに、地域住民の交流を深める。さらに草取りすることで、小学校を身近に感じて、学校行事に参加しやすい雰囲気を作りだす。 ・住民同士の会話からイベント情報を広め、多くの参加を促す。	×	
	③交流会の実施 ・幅広い世代を対象にティーサロンを実施する。	×	
	④サロン東江の開催 ・月1回サロン東江を開催する。 ・小学校の草取り、花植え等の作業に協力する。 ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。 ※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、老人クラブなどでの三世代交流を推進する。情報提供や参加への勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。	○	
現状及び今後の方針			
①お菓子取り競争、玉入れを地区社協として協力した。 ②熱中症が心配されるため小学校へ参集しての開催は中止した。 ③小学校閉校行事もあり、ティーサロンは開催しなかった。 ④月1回「サロン東江」を開催した。小学校児童、関係者と協力し、交流事業や草取り、花植え等の作業を行った。			

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 東江地区福祉活動計画

重 点 課 題	東江地区社協活動の情報が行き届いていない
事業名	
東江地区社協普及啓発	
地域の課題（背景）	
・東江地区社協活動の周知が不足。 ・東江地区社協への関心が低い。 ・自治会によって行事への参加に温度差がある。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①東江地区社協だよりを発行 ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。 ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。 ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。 ・地区全体に周知するため全戸配布する。 ・編集作業に負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。 ②東江地区社協の啓発用品を活用 ・身近にある住民が必ず寄る場所（ゴミステーションなど）に設置された掲示板を有効に活用し、地区社協や地域の行事をお知らせしたりして、情報を提供する。掲示板から提供された情報が住民同士の会話のきっかけとなるようにタイムリーな情報を掲示する。 ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用を再度お願いする。	
自助(自分でできること)	
・東江地区社協の活動情報を広める。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和6年度 東江地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者への見守りが不十分である
事業名	
高齢者の安全確保	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯が年々増加している。 ・地区の役員（民生委員児童委員・福祉推進委員）だけの見守りに限界がある。 ・地区の高齢者が集い、楽しく過ごす時間がほしい。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り ・75歳以上の高齢者、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。 ・高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。 ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。 ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。 ②生活安全教室 ・交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。 ・海津警察署等の協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。 ・悪質商法などについて消費生活講座で学ぶ。	
自助(自分でできること)	
・隣近所のひとり暮らし高齢者や高齢者世帯を日頃から気につけ、見守っていく。 ・行事、イベントの際はできる範囲での送迎を行う、声をかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和6年度 東江地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもの登下校が危険である
事業名	
子どもの見守り	
地域の課題（背景）	
・児童、生徒の登下校時を見守る住民が少ない。 ・不審者情報が多い。 ・下校時の低学年への見守りを強化したい。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①東江地区子ども見守り隊 ・小学校からの要請に基づき、見守りの体制を整える。 （集合場所、送迎ルート、送迎時間の確認が必要。各自治会への周知も必要。） ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域住民が協力して見守り活動に参加する。 ・東江地区社協が主体になって地域住民に見守りを呼びかける。 ・登下校の時間帯以外でも、畑仕事や散歩しながらでも、気軽に見守り活動に参加していただけるよう工夫する。（車の中にベストを吊るすなど） ・見守り活動の際には、防犯の啓発も兼ねて、見守りベストを着用し活動する。また、必ず見守りベストを着用するように周知する。 ・見守りボランティア活動への参加を更に周知する。	
自助(自分でできること)	
・積極的に参加し、参加を呼びかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和6年度 東江地区福祉活動計画

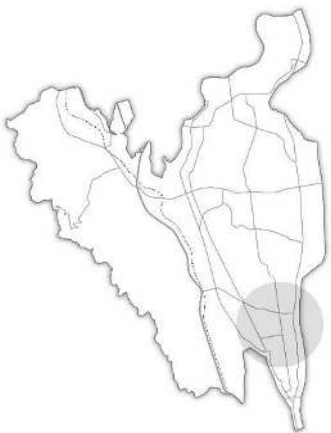
重 点 課 題	世代間のつながりが乏しい
事業名	
世代間交流事業	
地域の課題（背景）	
・自治会単位での世代間交流事業は実施しているが、地区全体の交流がない。 ・近隣住民の関係が希薄している。 ・幅広い世代の方に参加してほしい。 ・参加者を増やしたい。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①サロン東江の開催 ・月1回サロン東江を開催する。 ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。 ・月ごとに、地区内の各自治会集会所で持ち回りで行うなど、開催場所を工夫し、参加者を増やす。 ・高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。 ・地区社協として、地域での交流が広がるように、サロンを積極的に推進する。 ・サロン通信、案内チラシを発行する。自治会へ配布する。 ※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、老人クラブなどでの三世代交流を推進する。情報提供や参加への勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。	
自助(自分でできること)	
・積極的に参加する。 ・事業の啓発活動を工夫する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

4

大 江 地 区

【スローガン】

感謝のこころで
ふれあう地域づくり



【大江地区の人口】

	海津市		大江地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	1,843人	1,541人
対人口比	100.0%	100.0%	4.7%	4.8%
年少人口	5,187人	2,783人	199人	116人
年少率	13.2%	8.7%	10.8%	7.5%
高齢者人口	8,494人	11,526人	447人	574人
高齢化率	21.6%	36.2%	24.3%	37.2%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	244人	298人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	13.2%	19.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【大江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津温泉	いちい荘 (就労継続支援B型) (共同生活援助)	総合教育センター	海津市医師会病院
アクアワールド水郷 パークセンター			諏訪歯科医院
	しょうふう海津		
国営木曽三川公園	はつらつ海津		
長良川サービスセンター	はつらつ海津通所リハビリテーション		
大江警察官駐在所	グループホーム海津「福寿苑」		
大江郵便局	グループホーム千本松「福寿苑」		
	グループホーム木曽三川「福寿苑」		
	デイサービスセンター福寿		
	シルバーホームひまわり会館三川公園 (有料老人ホーム)		
	どんぐりの木海津 (有料老人ホーム)		
	リハビリ型デイサービスひだまり		

令和5年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン	感謝のところでふれあう地域づくり
-------	------------------

重点課題	地域交流「地域住民間における交流する機会の拡充」
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
三世代交流の促進事業	①大江小学校運動会（10月）・三世代交流会（12月） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、広報活動をする。 ・役割分担表をもとに、学校やPTAと連携を図る。 ・大江小学校最終年となる今年度出来ることを追求する。	△
	②大江地区三世代グラウンドゴルフ大会（11月） ・自治会の協力（参加者の募集）を得て、三世代が集まる地域交流の場として開催する。 ・子どもたちの参加を図るための方策を講じていきたい。 ・「大江地区社協便り」へ、開催と参加者募集の案内を掲載する。 ・雨天となった場合の交流会を、屋内に変えて実施できる内容（競技種目など）を考えていきたい。	○
	③大江地区の広域なサロンを計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい（市社協助成事業）」を6月に開催する。 ・参加者全員がお互いに積極的に触れ合える環境づくりに努める。	○

現状および今後の方針	
・長年続く、高齢者を対象とした『まめでいりゃーす会』を今後も継続開催に努めていく。 ・地域住民間における交流機会の拡充を図るという観点で、より多くの参加者（高齢者、幅広い世代の住民、外国人等）の交流可能な内容の事業を工夫すること。（小運動会、スポーツ交流、夏祭等） ・海津小としてスタートする地元の児童との交流の機会を図っていくかを考えていく。	

重点課題	防災「防災・減災に対する意識の高揚」
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
防災意識の向上事業	①講習会などの開催 ・災害は身近にあるものだとして認識し、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・講演会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・消防団と協力し開催する。 ・避難所運営ゲームを開催する。	△
	②災害対策 ・地区内における自主防災組織の編成について啓発していく。 ・避難所（学校）の防災備蓄品を確認し補充すべきものを確保及び要望していく。	○

現状および今後の方針	
・防災意識・知識の高揚を図っていくことは大切で重要である観点から「災害への備え」と題した防災講習会を10月に開催した。講演の後に備品を使っでの使用方法などの訓練を予定していたが、十分にできず次回に継続実施したい。また、防災備蓄品としてファミリールームを購入して合計12セットに増強した。今後は、防災・減災についての講習会の実施以外にも、特に避難所運営についての関心が高く要望も多いことからその訓練も計画し、備蓄品も充実していきたい。 ・自主防災組織編成の重要性については、講演会などを通じ啓発に努めていく。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン	感謝のこころでふれあう地域づくり
-------	------------------

重点課題	見守り「地域での見守り活動の積極化」
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
見守り活動の促進事業	①子どもたちへの見守り ・登下校の見守りを行うため、学校・PTAと協力し、各地点の当番表を作成する。 ・増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集する。 ・通学路周辺での見守り活動を呼びかける。 ・通学路の登下校時間帯での規制について働きかける。 ・小学校統合後の体制について検討する。	○
	②生活支援推進会議 ・自治会長、福祉推進委員、民生委員児童委員、運営委員による福祉懇談会の開催する。 ・定期的に福祉懇談会を開催し活動の具現化を協議する。	○
	③暮らしを支えあう活動・大江 ・生活支援「ちょこっと活動」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。	

現状および今後の方針
・小学生の登下校の見守りは、当番表により多くの方のご協力を得て活動出来た。令和6年度からは、学校統合後の見守りの方法を含め検討していく。小学生はバスによる登下校となるため、その方法等については十分な検討が必要である。新設の海津小学校からの方針として「各バス停までの送迎は保護者の責任において実施されたい。」旨のお願いがあり、その方針に従って具現化をし、効果的な見守りを構築する。 ・高齢者の見守りなどは、福祉推進委員や民生委員児童委員がきめ細やかに活動されている。本会としては、今後も引き続いて積極的な支援活動に取り組んでいく。 ・今年度発足した「大江ん隊」の今後の活動が期待されている。多くの方にサポーター登録をいただき、今後は研修会などを開催し、知識と意識の高揚を図っていくことが重要である。 ・福祉懇談会は実施に制約はあるが随時開催し、現状把握、課題などをグループで協議し、情報交換に努め本活動の重要性について更に認識を深めていきたい。市社協において実施された、高齢者へのアンケートでは、今のところ、「買い物・通院」で困っている方は無いが、「将来の移動手段」に不安を持つ方がいるという現状である。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン	感謝のこころでふれあう地域づくり
-------	------------------

重点課題	広報「地域住民に対する地区社協の認識度の向上」
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
地区社協の啓発活動事業	①地区社協の広報活動 ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配布を依頼する。 ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、文字を大きくし、読みやすく分かりやすい内容となるような紙面とし、カラー版を継続していく。	○
	②イベントや部会活動の広報活動 ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・各自治会活動・行事を掲載する。	○

現状および今後の方針
・地区社協便りは、年4回カラー版にて発行した。部会員が協力し、配布などの準備を行った。コロナ禍が明け、主なイベントが再開され、掲載記事も豊富となった。防災部会主催の講演会の内容をまとめ、チラシとして配布したことで、社協の事業を広くを知らせることができた。 ・今後も引き続き、より地域住民に読みやすく分かり易い内容となるような紙面にしたい。カラー版もさらに充実していきたい。内容がマンネリ化とならないよう努めていく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 大江地区福祉活動計画

重点課題	地域での見守り活動の積極化
事業名 見守り活動の促進事業	
地域の課題（背景） - 子どもたちの登下校の見守り活動の継続の重要性を確認し、各バス停において乗降時の見守りについて検討を進めていく。そのためのボランティアの募集を推進。 - 高齢化及び核家族化の進行によることなどから、高齢者を取り巻く家族構成の変化、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加などの対策は急務である。 - 令和5年度において、生活支援要項を策定し、「大江ん隊」組織がスタートした。活動の実績は未だないが、必ずや利用者が出てくるものと考えられる。そのための準備を進めていく。 - 市社協による実態調査によると、今のところ支援を必要と感じている人はいないという結果が出ている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入） ○子どもたちへの見守り - 登下校の見守りを行うため、学校・PTAと協力し、バス停毎の当番表を作成する。 - 増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集する。 - 通学路周辺での見守り活動を呼びかける。 - 通学路の登下校時間帯での規制について働きかける。 - 小学校統合後の体制について検討する。 ○生活支援推進会議 - 自治会長、福祉推進員、民生委員児童委員、運営委員による福祉懇談会の開催。 - 定期的に福祉懇談会を開催し、活動の具現化を協議する。 ○くらしを支え合う活動・大江 - 生活支援「大江ん隊」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。 - 生活支援「大江ん隊」の充実を図るため、サポーターの集い、研修会を開催する。	
自助(自分でできること) - 積極的に見守り活動に参加する。 - 地域の助け合い・支え合い活動への参加。	
公助（行政や社協に依頼すること） 小中高生の安心安全登下校のため、運転者に対し安全通行の指導と交通標識の充実強化を願う。	

令和6年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民間における交流する機会の拡充
事業名	
三世代交流の促進事業	
地域の課題（背景）	
・大江地区には多くの福祉施設があるので、施設利用者にも参加いただけるような企画を考えたい。 ・地域ふれあい交流の更なる促進のため「三世代グラウンドゴルフ大会」や「まめでいりゃーす会・ひとり暮らし高齢者のつどい」の開催を引き続いて実施していきたい。 ・地区内の子どもたちの減少が大きな課題である。 ・令和6年度から海津町内5小学校の統合し海津小学校が開校する。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○大江地区 小運動会（秋）・餅つき三世代交流会（冬） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、周知活動する。 ・役割分担表をもとに、学校やPTAと連携する。 ・海津小学校との関わりを保ちながら、今年度以降継続して出来ることを追求する。 ○大江地区三世代交流グラウンドゴルフ等スポーツ大会（秋） ・自治会の協力（参加者の募集）を得て、三世代が集まる地域交流の場として開催する。 ・子どもたちの参加を図るための方策を講じていきたい。 ・「大江地区社協便り」などで、開催と参加者募集の案内を掲載する。 ・雨天となった場合の交流会を、屋内に変えて実施できる内容（競技種目など）を考えていきたい。 ○大江地区の広域なサロンを計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい（市社協助成事業）」を（夏・秋）開催する。 ・参加者全員がお互いに積極的に触れ合える環境づくりを行う。	
自助(自分でできること)	
イベントが行われる際には、近所の人に参加の呼びかけをする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
高齢者のつどい事業拡充のため助成金の増額を願いたい。	

令和6年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	防災・減災に対する意識の高揚
事業名	
防災意識の向上事業	
地域の課題（背景）	
・地域住民の皆さんの防災・減災に対する関心の高さは大きいと感じている。 継続して講演会・講習会などを開催することは重要である。 ・何をすれば良いか、何に備えれば良いか等、具体的な防災行動に迷う住民は多い。 ・大江地区では自主防災組織の編成が少ない。災害対策として重要性を啓発していきたい。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○講演会等の開催 ・災害は身近にあるものだとし、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・講演会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・消防団と協力し開催する。 ・避難所運営ゲームを開催する。 ○災害対策 ・地区内における自主防災組織の設置について啓発する。 ・避難所（旧大江小学校 総合教育センター）の防災備蓄品を確認し、補充すべきものを確保及び要望する。	
自助(自分でできること)	
・避難場所などや避難経路の確認 ・地域住民に対する防災意識の高揚を更に図るために、各地域住民にまで広げた防災訓練または、講習会を実施する。 ・備蓄品を確認し、備品等の充実を図るとともに、この備品を使つての実務訓練を行っていく。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・地域住民に対する防災意識の高揚を図るため積極的な働きかけをお願いする。 ・避難所運営ゲーム（HUGゲーム）を防災講演会場で実施をお願いする。 ・備蓄品の充実を図るよう依頼する。	

令和6年度 大江地区福祉活動計画

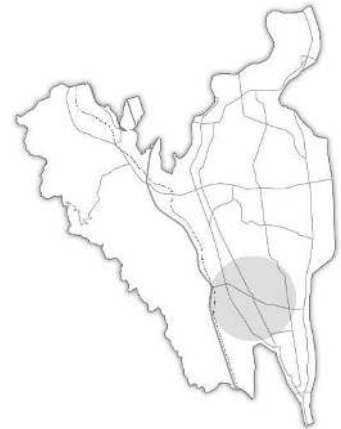
重 点 課 題	地域住民に対する地区社協の認識度の向上
事業名	
地区社協の啓発活動事業	
地域の課題（背景）	
・地区社協便りを地域住民に早期配布することをお願いしていきたい。 ・啓発イベントの参加者増員を図ること。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○地区社協の広報活動 ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配布を依頼する。 ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、文字を大きくし、読みやすく分かりやすい内容となるような紙面とし、カラー版を継続していく。 ・大江区内の公共施設、商店、作業所、福祉施設等へも広報誌を配布し、大江社協の活動を広く知ってもらおう。 ○イベントや部会活動の広報活動 ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・各自治会活動・行事を掲載する。 ・健康づくりに関する情報を継続して掲載する。	
自助(自分でできること)	
積極的に参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
活動助成金の増額をお願いしたい。	

5

西江地区

【スローガン】

西江の絆
～みんなでふれあう支えあう～



【西江地区の人口】

	海津市		西江地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	1,865人	1,480人
対人口比	100.0%	100.0%	4.7%	4.7%
年少人口	5,187人	2,783人	238人	128人
年少率	13.2%	8.7%	12.8%	8.6%
高齢者人口	8,494人	11,526人	378人	557人
高齢化率	21.6%	36.2%	20.3%	37.6%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	194人	275人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	10.4%	18.6%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【西江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
	西江地区を盛り上げる会 (西江地区社協) 事務所		

令和5年度 西江地区福祉活動計画評価表

スローガン	西江の絆～みんなでふれあう支え合う～
-------	--------------------

重点課題	地域での三世代間交流の機会の減少
------	------------------

事業名	推進方法	評価
三世代交流推進事業	①夏休みものづくり体験教室の実施 今年度は計画できず。	×
	②さつま芋の苗植え・収穫体験の実施 ・地域住民の畑を借り、子どもたちと地域住民の交流を深める目的で実施する。 ・5月に苗植え、10月に収穫体験を行う。草取りや水やりも育成会、部会員が協力して行う。 ・収穫後は、代表者が市社会福祉協議会へ持参	○

現状および今後の方針
三世代交流部会の役員減少もあり、ものづくり体験は、予定を立てることが出来なかった。苗植え・収穫については予定どおり実施し、収穫後、芋調理により食べる予定でしたが、市社協へ寄付をした。次年度は学校側の体制もわからなく、さつま芋の苗植え、収穫のみ実施予定。

重点課題	地域住民と子どもたちのふれあう機会が少ない
------	-----------------------

事業名	推進方法	評価
子どもを通じ、地域とのふれあい活動	①小学校の運動会の地域種目の実施 ・運動会に招待されず、実施できなかった。	×
	②年末夜警の実施 ・コロナ感染症の影響もあり、実施できなかった。	×

現状および今後の方針
コロナ感染症により、計画の段階で断念せざるを得ない状況であり、活動が出来なかった。次年度学校側の体制が分からず、休部とする。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 西江地区福祉活動計画評価表

スローガン	西江の絆～みんなでふれあう支え合う～
-------	--------------------

重点課題	広域サロンの認知度を高め、イベント参加者を募る
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
西江地区ふれあい いきいきサロン事業	①西江地区ふれあいいきいきサロンの開催 ・自治会単位で開催しているサロンに働きかけ、計画の充実を図る。 ・サロンの内容を参加者が楽しめるよう検討していく。 ・広域サロン部会員としての自覚を持ち、協力意識を向上させる。 ・福祉推進委員の協力を得て、各自治会の高齢者へサロンの周知を行う。 ・部会員の協力体制が、出来上がりつつあり、意識向上を図る。	○

現状および今後の方針
新型コロナウイルス感染症に多少左右される状況もあり、計画どおり出来ない事もあったが、概ね活動することができた。次年度も同様開催していきたい。回数は年6回を予定している。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民と子供たちのふれあう機会が少ない
事業名	
子どもを通じ地域とのふれあい活動	
地域の課題（背景）	
・行事では地域住民と子どもたちとの交流はあるが、普段の生活では十分な交流がない。 ・子どもの数が減少し、地域住民との交流の場の減少している。 ・地域住民と子どもの顔見知りを増やし、安心して暮らせる地域をつくる。 ・令和6年4月より、小学校の統合があり、その対応の検討。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・西江小学校の廃校により、海津小学校の対応が、もう少し具体的にない、休部とする。	
自助(自分でできること)	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・海津小学校の対応を、具体的に示して欲しい。	

令和6年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	広域サロンの認知度を高め、イベント参加者を募る
事業名	
西江地区ふれあいいきいきサロン事業	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者や日中ひとりだけになる方の地域交流する場が少ない。 ・地域住民の西江地区社協への関心が薄い。 ・サロン部会の、活動の徹底と部会員の協力	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○西江地区ふれあいいきいきサロンの開催 ・今年度より年6回（偶数月）に開催 ・12月のサロンは、独居老人も含めて実施する。 ・サロンの内容を参加者が楽しめるよう検討していく。 ・広域サロン部会員として自覚を持ち、協力意識を向上させる。 ・福祉推進委員の協力を得て、各自治会の高齢者へサロンの周知を行う。	
自助(自分でできること)	
・参加者が楽しめる内容を考える。 ・サロン部会会員を中心して、ご近所でサロンの呼びかけを行う。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・参加者送迎の確保（送迎ボランティアの活用を検討する。）	

令和6年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域での三世代交流機会の減少
事業名	
三世代交流推進事業	
地域の課題（背景）	
・地域での世代間交流の機会の減少。 ・核家族化が進み、子どもたちと高齢者が接する機会の減少。 ・令和6年4月より、小学校の統合があり、その対応の検討	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○さつま芋の苗植え・収穫体験の実施 ・地域住民の畑を借り、子どもたちと地域住民の交流を深める目的で実施する。 ・5月に苗植え、10月に収穫体験を行います。草取りや水やりも育成会、部会員が協力して行う。また、中学生を中心に進めていくように検討する。 ・収穫後はみんなで分けあい、余った芋については市社協に一部寄付をする。	
自助(自分でできること)	
・事業への積極的な参加、呼びかけ。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

6

今尾地区

【スローガン】

助け合いの心で
地域の和（輪）を広げよう



【今尾地区の人口】

	海田市		今尾地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	5,237人	4,153人
対人口比	100.0%	100.0%	13.3%	13.1%
年少人口	5,187人	2,783人	770人	386人
年少率	13.2%	8.7%	14.7%	9.3%
高齢者人口	8,494人	11,526人	1,114人	1,461人
高齢化率	21.6%	36.2%	21.3%	35.2%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	568人	739人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	10.8%	17.8%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【今尾地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海田市役所平田支所	今尾コスモスこども園		稲田クリニック
海津消防署平田分署	ほっとハウス” こんたん家”		かわい整形外科
平田公園	デイサービスセンター千の郷	今尾小学校	辻中医院
平田総合福祉会館 やすらぎ会館	グループホーム天の花	海津特別支援学校	今尾歯科医院
	デイサービス天の花		ホワイトオタリ歯科医院
SSドローンプラザ			吉田歯科
ふれあいセンター			
平田交番			
平田郵便局			

令和5年度 今尾地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合いの心で地域の和（輪）を広げよう
-------	---------------------

重点課題	地域の見守りについて
------	------------

事業名	推進方法	評価
地域の助け合い事業	- 交通安全啓発活動（ヨシツヤ） - 児童の見守り活動 - 児童の連れ去り防止チラシ配布…（4月） - 交通安全教室の開催…（4月） - 夏休み中の事故防止チラシ配布…（7月） - 春休み前の交通安全のチラシ配布…（3月） - 連れ去り防止看板の作成と設置 - 年金支給日に啓発活動 - 詐欺防止に関する講演会 - ひとり暮らし高齢者の方に防犯ブザーの配布と電池交換 - 部会の開催	○

現状及び今後の方針		
- 児童には、それぞれの時期においてチラシを配布することで、自分自身で身を守る意識づけをした。 - 高齢者の方に対しても、安全に暮らしただけのように講演会を開いたり、見守り活動に努めた。 - これらの事業は、次年度も継続して行う。		

重点課題	地域交流について
------	----------

事業名	推進方法	評価
地域の輪を広げる事業	- 三世代交流ラジオ体操の開催 8月…今尾小学校グラウンド 各自治体、平田中学校、今尾小学校、今尾コスモスこども園などの協力を得て、開催チラシを配布する。 - 三世代交流なわとび大会…（1月） - 三世代交流演芸大会…フルート演奏 - 高齢者のつどい 地区社協役員で協力し、ひとり暮らし高齢者（70歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に開催する。	△

現状及び今後の方針		
- コロナも5類に移行されたこともあり、早朝のラジオ体操には多くの参加者があった。ただ、もう少し遅い時間の方が出やすいという声もあったので、次年度は少し遅らせての開催にする。 - 高齢者のつどいは、4年ぶりに行った。参加者が4分の1ほどであったので、年の暮れに対象者全員に訪問して花鉢配布も行った。 - 事業全体としては、時期が重なって後半の行事ができなかったので、次年度は無理のないように進めていこうと思う。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 今尾地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域の見守りについて
事業名	
地域の助け合い事業	
地域の課題（背景）	
・子どもの数が減少してきているが、やはり地域での見守りは大切にしていきたい。 ・近年、他県において災害が起きているので、いざという時の備えに自分たちで身を守る為の知識を身につけていくことも必要に思う。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
・交通安全啓発活動（ヨシツヤ、クレール平田、今尾小学校） ・児童の見守り活動 ・児童の連れ去り防止標語入看板設置 ・交通安全教室の開催…（今尾小学校児童） ・夏休み前、水難防止チラシ配布 ・年金支給月に啓発活動 ・振り込め詐欺防止対策講演会 ・介護保険についての講演会 ・災害など危機管理講演会 ・ひとり暮らし高齢者防犯ブザーの確認 ・交通安全クイズ大会の実施（こんぺいた運動会に協賛） ・部会の開催	
自助(自分でできること)	
・自分の身は自分で守る。 ・進んで活動に参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和6年度 今尾地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域交流について
事業名	
地域の輪を広げる事業	
地域の課題（背景）	
・コロナの影響で、いろいろな集まりがなくなってしまい、住民が集まりの場を求めている。そのため地区社協から提案して集まりの場を設定し、地域に広げていきたい。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
・三世代交流会 - 認知症予防講座と茶話会（6月8日 ふれあいセンター） - みんなでラジオ体操&ビンゴ（8月3日 今尾小学校グラウンド） - 三世代交流会、茶話会（11月） - 部会の開催 ・地域懇談会 ・高齢者のつどい（11月）	
自助(自分でできること)	
・地域行事に積極的に参加し、地域住民同士の交流を深める。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

7

海西地区

【スローガン】

地域のネットワークで
安心安全な海西



【海西地区の人口】

	海津市		海西地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	2,981人	2,440人
対人口比	100.0%	100.0%	7.6%	7.7%
年少人口	5,187人	2,783人	390人	248人
年少率	13.2%	8.7%	13.1%	10.6%
高齢者人口	8,494人	11,526人	631人	849人
高齢化率	21.6%	36.2%	21.2%	34.8%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	312人	404人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	10.5%	17.9%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【海西地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海西公民館	わかば海西こども園		榑原医院
クレール平田（道の駅）	地域密着型特別養護老人ホーム かいさいの華	海西小学校	寺倉医院
平田リバーサイドプラザ		平田中学校	
海西警察官駐在所	小規模多機能 かいさいの華		
海西郵便局			

令和5年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティへの参加推進	
事業名	推進方法	評価
地域見守りネットワーク 推進事業	○子ども達の見守りを行う。 ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域全体で見守り活動を行う。 ・各自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月1日に通学路に立つ。	○
	○高齢者を見守り活動を行う。 ・ひとり暮らし高齢者宅へふれあい訪問を実施する。(年2回) ・海西小学校の児童と学校関係者、自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員が各地に分かれ、ひとり暮らし高齢者宅へ訪問をする。児童が心をこめて育てた花や手紙を渡しコミュニケーションを図る。	○
	○高齢者を囲む会を開催する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者(70歳以上)、高齢者世帯(75歳以上)、高齢者(80歳以上)を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、昨年度のように見守りのための訪問をする。	○
現状及び今後の方針		
1、子どもたちの見守り活動 地区社協として毎月の第1登校日に行う。各地区で海西小学校の児童の登校時の見守り活動を行った。今後も継続して活動していきたい。地域の方に児童の下校時の見守りも行ってもらえた。今後もこの活動は続けていきたい。 2、高齢者を見守り活動 ひとり暮らし高齢者宅にふれあい訪問をした。海西小学校の児童とは一緒に訪問ができなかった。各地区の自治会長・民生委員児童委員・福祉推進委員でひとり暮らし高齢者宅・高齢者世帯を訪問し、感染症防止のマスク等を持参し、声かけを行った。 3、高齢者を囲む会の実施 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員等の協力で、ひとり暮らし高齢者(70歳以上)、高齢者世帯(75歳以上)を対象に、「海西地区高齢者を囲む会」を海西公民館で行った。4年ぶりの開催で参加してくださった高齢者の皆さんは、わかば海西こども園児との交流もできて楽しく過ごしてもらえた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題		地域の交流の希薄
事業名	推進方法	評価
三世代交流の推進事業	○三世代交流事業を推進する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員との連携や三世代交流事業の活発化を図るため、海西地区三世代交流グラウンドゴルフ大会を実施する。（年1回） 会 場：海西小学校グラウンド 対象者：海西地区在住の方（各地区1チーム以上）	○
	○にこにこ子育て支援事業を推進する。 ・子ども会と協力し、子どもから高齢者、障がい者まで、幅広く交流が図れる行事などを行う。レクリエーション大会などを計画。	
	○サロン活動を推進する。 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、老人クラブと連携しながら、閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者や障がい者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようにサロン活動を推進する。また、サロンの立ち上げ活動の支援(サロン活動未地区へのアドバイス)などを行う。	○
現状及び今後の方針		
1、三世代交流事業の推進 海西地区三世代交流グラウンドゴルフ大会、海西地区レクリエーション大会の二つの事業を合わせて三世代交流事業として行った。にこにこ子育て支援事業を活用して、子ども会、育成会と協力し子どもから高齢者まで参加して平田公園で「レクリエーション大会」を行った。 2、サロン活動の推進 広域サロンは、対象者の交通手段の確保が難しく、実施が見込めていない。 今年度、サロン活動が行われていない幡長自治会で、新しくサロン活動始めることができた。自治会長、福祉推進委員、民生委員児童委員、老人クラブの方の尽力により、活動ができた。 3、視察研修の実施 日程や研修先があわずに今年度は実施できなかった。次年度は、早めに動こうと思う。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題		各自治会の防災意識の欠如
事業名	推進方法	評価
防災意識(知識)向上及び 防災啓発の推進事業	○防災について研修会を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員と協力して、消防署の職員や専門家を招いて防災に対する知識や技術などを学ぶ。 ・地域住民自身が、防災をより身近なものであると認識し、危機管理意識を高める。	○
	○防災対策 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災備品等の検討や危険個所の確認をする。	○
現状及び今後の方針		
自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員と協力して、防災の専門家を招いて避難所設営訓練を行った。地域住民の一人一人が防災がより身近なものと認識し、危機管理意識を高めていくため研修を行った。今後は防災講座等を充実したい。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 海西地区福祉活動計画

重 点 課 題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティーへの参加推進
事業名	
地域見守りネットワーク推進事業	
地域の課題（背景）	
・高齢者の増加 ・近隣との関係の希薄化 ・海西地区8自治会長を中心にした事業活動の展開 ・子どもの安全な登下校を見守る体制の充実を図る。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○子どもたちの見守りを行う。 ・安心して児童生徒が登下校できるように、地域全体で見守り活動を行う。 ・各自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月第一登校日に通学路にたち、安全を見守る。 ○高齢者の見守り活動を行う。 ・ひとり暮らし高齢者宅・高齢者世帯へふれあい訪問をする。 ○高齢者を囲む会を開催する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者（70歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。	
自助(自分でできること)	
・子どもたちや高齢者に積極的に声をかける。 ・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への見守り	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・助成金、場所、物品等の協力、活動への助言	

令和6年度 海西地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域交流の希薄
事業名	
三世代交流の推進事業	
地域の課題（背景）	
・ 少子化・高齢化や共働き家庭の増加で三世代で交流する機会が少なくなってきた。 ・ 海西8地区のかかわる機会が少ない。 ・ 各地区内での住人のつながりが希薄化している。 ・ 世代を超えた関わりが少ない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○にこにこ子育て支援事業を推進する。 ・ 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、子ども会との連携や三世代交流事業の活性化を図るため、にこにこ支援事業を活用して、子どもから高齢者、障がい者まで幅広く交流が図れる行事などを行う。 三世代交流レクリエーション大会 ○サロン活動を推進する。 ・ 各自治会役員、民生委員児童委員・福祉推進委員、老人クラブと連携しながら、閉じこもりがちなひとり暮らしの高齢者や障害者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようにサロン活動を推進する。また、サロン立ち上げの活動の支援(サロン活動未実施地区へのアドバイス)などを行う。 ○視察研修を行う	
自助(自分でできること)	
・ 自分から進んであいさつをする。 ・ 地域行事に積極的に参加し、交流を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ 助成金、場所、物品等の協力、活動への助言	

令和6年度 海西地区福祉活動計画

重 点 課 題	各自治会の防災意識の欠如
事業名	
防災意識(知識)向上及び防災啓発の推進事業	
地域の課題（背景）	
・災害に対しての意識、知識が乏しい。 ・各自治会において防災への意識が乏しいため、組織や連携ができていない。 ・災害時における避難場所の明確化と備蓄品等の充実が不十分である。 ・危険箇所がはっきりしていない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○防災について研修会を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士等と協力して、消防署の職員や防災の専門家を招いて防災に対する知識や技術などを学ぶ。講座を充実し、専門的な話が聴けるとよい。 ・地域住民自身が、防災がより身近なものであると認識し、危機管理意識を高める。 ○防災対策 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災備品等の検討や危険箇所の確認をする。 ○避難所運営訓練を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、他団体と連携を図りながら、避難所運営訓練を行う。	
自助(自分でできること)	
・自分自身の命を大切にする。 ・自治会行事に積極的に参加し、つながりを密にし、連携する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・海津市総務課危機管理室や防災士による研修への支援や訓練への指導・助言 ・消防署員による救急救命時の動きなどの指導と講習	

8

下 多 度 地 区

【スローガン】

見守って 声掛けあって
地域の絆は 下多度から



【下多度地区の人口】

	海津市		下多度地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	2,368人	1,891人
対人口比	100.0%	100.0%	6.0%	5.9%
年少人口	5,187人	2,783人	297人	149人
年少率	13.2%	8.7%	12.5%	7.9%
高齢者人口	8,494人	11,526人	604人	714人
高齢化率	21.6%	36.2%	25.5%	37.8%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	344人	399人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	14.5%	21.1%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【下多度地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所下多度支所	やろまいか (就労移行支援) (就労継続支援B型)	下多度小学校	養南病院
海津市みかげの森 「プラザしもたど」	オレンジハイツ (グループホーム)		
北部コミュニティセンター	特別養護老人ホーム 長寿の里・南濃		
下多度郵便局	デイサービスセンター 長寿の里・南濃		
	いっぴくの郷 春藤園 (デイサービス) (有料老人ホーム)		

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン		見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
重点課題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保	
事業名	推進方法	評価
通学路安全確保事業	・下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続し、通学路の安全確保を図る。 ・スクールガードボランティアによる、下校時の見守り活動を継続する。 ・第1・第3水曜日を基準に、下多度小学校と調整して、月2回実施する。	○
現状及び今後の方針		
・スクールガードボランティアの活動により、交通事故防止と犯罪防止の抑止力として機能していると思われる。 ・県内における下校中の子どもに対する不審者の声かけ、つきまとい、身体に触られるなどの事案が発生しており、次年度以降も交通事故や不審者に対する抑止力としての活動を継続する。		

重点課題	子どもの、自然保護や障がい者に対する理解の深耕	
事業名	推進方法	評価
子どもの活動を豊かにする事業	・外来魚の駆除と、貴重生物の保護活動 6月 ・寺院を利用した歴史の学習と講話、及び縁日 7月 ・障がいのある人たちの理解と交流会、及び障がい者スポーツ体験 10月	○
現状及び今後の方針		
・どの活動とも大勢の、子どもたちや保護者の参加があった。 ・今後もこの活動を続けて欲しいと、保護者から要望があった。特に外来魚の駆除作業は、なかなか体験できないことから、来年度も続けて欲しいとの声が多く寄せられた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から	
重点課題	高齢者の買い物や通院の手段がない	
事業名	推進方法	評価
高齢者移送サービス事業	・従来から進めている高齢者移送サービス事業を、協力会員の無理のない範囲で、継続実施する。 ・引き続き、協力会員の募集を行う。 ・利用会員の相互の連携を図り、相乗り等効率的な運行を考える。 ・運行範囲を近隣に限定して、長続きさせる方法を模索する。	○
現状及び今後の方針		
・福祉利用目的の事業であり、利用者は生活に必要な目的に利用を心がけてもらうとともに、公共交通機関利用を最優先に安易な利用を控えてもらう。 ・協力会員相互の連携を図り、負荷の平準化を図る。		

重点課題	高齢者の生活支援ニーズが多岐にわたり拡大している	
事業名	推進方法	評価
生活支援「ちょこっとお手伝い」事業	・介護の資格がなくてもできる「ちょこっとお手伝い」で、高齢者に寄り添う生活支援を行う。	○
現状及び今後の方針		
・気心の知れた間柄を構築し、気兼ねなく利用してもらえるよう努める。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	①住民同士の交流機会が少ない ②高齢者の交流する機会が減少している
------	--------------------------------------

事業名	推進方法	評価
しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）	1) 地域交流会の開催：『しもたどフェスティバル』の開催 2) 開催日：令和5年 8月13日（日曜日）に開催を計画 3) 会場：プラザしもたど （駐車場前面＋コミュニティーセンター含む全館） 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加わり、新型コロナウイルス感染対策も含めた部会活動の実施 ①『ぬり絵』を企画して実施する。 ②新規イベントを企画して実施する。 5) 自治会・中学校・小学校等に、協力を要請する。 6) 中学生・小学生等、各種団体・個人へ参加・協力を募る。 7) 新型コロナウイルス感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。	○

現状及び今後の方針
・ぬり絵参加者は、下多度小学生だけでなく近隣小学生の参加や、中学生の参加が増加した。 ・従来のぬり絵・ストラックアウト等の継続、新企画、射的・輪投げ・遊具設置の開設ができた。 ・参加者の景品取得の偏りを、次回以降平準化する検討が必要である。 ・協力中学生のイベント担当の、ローテーション化を検討する。 ・70～80歳の高齢者の参加があり、交流する場面も多く見られた。

重点課題	大規模災害に対する備えの大切さの周知
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
啓発活動による防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化	○啓発活動の推進 ・防災かわら版→今まで発行したものを振り返り、今後のテーマを決める。 ・防災パネル→昨年、自治会所有のゴミステーションに設置した防災パネルの防災ポスターを更新する。（概ね6か月ごと） ・研修会の開催 ○自主防災組織への働きかけと提案 ○避難所の開設、運営方法の勉強会	○

現状及び今後の方針
防災意識の高揚と各家庭の備えの強化をもう一步進めるには、自主防災組織との協働が必要であり、現状の課題である。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	高齢者の交流機会が少ない
------	--------------

事業名	推進方法	評価
しもたどサロンの開催	・下多度地区全体を対象とする「しもたどサロン」を開催する。（時期未定） ・地域の多くの高齢者の集いの場となるように「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて実施する。 ・自治会区域で行われているサロンを通じて、広く呼びかけを行う。 ・会場までの交通手段は、ひとりでも多く参加者を増やすべく、バスの利用も検討する。 ・新型コロナウイルス感染症は、第2類から第5類に変更されるが、流行が確実に収まるとは限らないので、慎重に判断したい。 ※開催する場合 マスクの着用、手指の消毒等、開催時期の感染状況を勘案しながら、コロナウイルスへの感染リスクを、極力少なくできるよう対策を講じて実施する。 ・できれば食事も皆で一緒にとりたいが、場合によっては弁当の持ち帰りも検討する。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される場合は、規模を縮小して訪問型とし、ひとり暮らし高齢者宅を訪問、安否確認を兼ねて生活必需品の配付などを実施したい。	○

現状及び今後の方針
・来場者を多くするため、市の所有するバスの利用を検討するも、スケジュール的に困難として断念した。移動手段のない参加者の会場への移動は、家族や近隣の方の車で送迎をゆだねるしか方法がなかった。 ・全員に弁当を配付したが、会場での飲食が禁止されていることから、隣室の厨房を食事場所とするも、手狭なため、来場者のほとんどが自宅に持ち帰るなど、折角の懇談の機会が生かせなかった。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保
事業名	
通学路安全確保事業	
地域の課題（背景）	
・少子化の進行に伴い児童数も少なく、下校時にも目立たないことから、交通事故が懸念される。 ・相変わらず、不審者による下校中の児童に対する声掛け、つきまといなどの事案が、県内で年間500件ほど発生している。 2月半ば、津屋地区内の路上でも、下校中の児童たちにスマホを向ける事案が発生していることから、他人事ではなく地域の児童の安全・安心が脅かされている。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続し、通学路の安全確保を図る。 ・スクールガードボランティアによる、下校時の見守り活動を継続する。 第1・第3水曜日を基準に、下多度小学校と調整して、月2回実施する。	
自助(自分でできること)	
・地域住民による、児童を見かけたら、登下校時のみならず声掛けと挨拶活動を行う。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	自然や地域を生かした子どもの遊ぶ機会の創造
事業名	
子どもの活動を豊かにする事業	
地域の課題（背景）	
・ますます子どもの人数は減少し、下多度小学校では、令和6年度から複式学級になる。 ・地域の良さや、自然の大切さを子どもたちに植え付ける機会を与えたい。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・地域の小学校、子ども育成会と協力して、多くの子どもや父母に参加してもらい、講師を招いて地域の歴史の学習や、自然の素晴らしさを感じてもらいたい。 ① 外来魚の駆除事業と生態系の勉強会の実施 ② お寺での歴史の勉強会と縁日 ・地域で活躍している団体や個人にも協力していただき、事業を展開する。	
自助(自分でできること)	
家族や近隣の知り合いに、開催される行事への参加を呼びかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
講師の派遣 PR活動	

令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の買い物や通院の手段が少ない
事業名	
高齢者移送サービス事業	
地域の課題（背景）	
・下多度地区の高齢化率は市内でトップクラスで、高齢者のみの世帯は増加し続けている。 ・自動車運転免許の返納も含め、通院や買い物に困っている高齢者が多くいる。 ・高齢者の親族は海津市外が多く、気軽に頼れない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・従来から進めている高齢者移送サービス事業を、協力会員の無理のない範囲で継続実施する。 ・引き続き協力会員の募集を行う。 ・スマートフォンを活用して協力会員相互の連携を図り、負荷の平準化を図る。 ・デマンドバスの活用や、近親者による送迎を優先するよう、利用会員に要請する。 ・福祉目的から逸脱しない利用を、利用会員に要請する。 ・移送サービス事業への積極的な参加を、自治会、民生委員児童委員等に要請する。	
自助(自分でできること)	
・公共交通機関の利用、近くに住む親族に送迎を依頼する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・協力会員へのインセンティブ制度の導入 ・国に対して、大都市だけでなく地方への「ライドシェア制度」の早期導入の要請	

令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の生活支援ニーズが多岐にわたり拡大している
事業名	
生活支援「ちょこっとお手伝い」事業	
地域の課題（背景）	
高齢化が進み、生活全般にわたり支障をきたす家庭が急増している。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
介護の資格がなくてもできる「ちょこっとお手伝い」で、高齢者に寄り添う生活支援を行う。	
自助(自分でできること)	
気心が知れた間柄を構築し、協力会員が実施できる支援を、無理のない範囲で対応していく。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
生活支援ニーズを民生委員児童委員や自治会、市社協と共有し、地域全体での支援に繋げる。	

令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題

- ①住民同士の交流機会が少ない
- ②高齢者の交流する機会が減少している

事業名

しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）

地域の課題（背景）

- 1) 自治会単位の交流事業は実施しているが、地区全体の交流の場が少ない。
- 2) 子どもをはじめ、各年代が一堂に集まる機会や顔を合わせる機会がないと思われる。
- 3) 地域全体で集まり、会話し、笑い楽しみ、顔見知りになることで、地域交流が深くなると考えている。
- 4) コロナ感染防止対策で、3年間地域での交流が一段と減少して、交流の場を創ることがより一層必要と思われる。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- 1) 地域交流会の開催：「しもたどフェスティバル」の開催
- 2) 開催日：令和6年8月14日（水）に開催を計画
- 3) 会 場：プラザしもたど（駐車場前面＋コミュニティーセンター含む全館）
- 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加わり、新型コロナウイルス感染対策も含めた部会活動を実施する。
 - ①「ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ」等を企画して実施する。
 - ② 新規イベントを企画して実施する。
- 5) 自治会・中学校・小学校等に周知して、協力を要請する。
- 6) 中学生・小学生等、各種団体や個人に参加を募る。
- 7) 新型コロナウイルス感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。
- 8) 真夏の開催で最近の危険な暑さであり、スタッフ・参加者年齢を考慮した対策を考慮して実施する。
- 9) しもたどフェスティバル実行委員会に計画を提案し、実行委員会に加わって活動する。
- 10) 地域の住民と共に、常に新たな企画を検討して、積極的に取り組んで行く。

自助(自分でできること)

地域住民との交流を図るため積極的に参加するとともに、家族や近隣の知り合いにも参加を呼びかける。

公助（行政や社協に依頼すること）

- 1) 下多度自治会を始め、中・小学校等へ協力をお願いして参加を募る。
- 2) 開催についての後援・場所の許可・広域広報等の協力を、海津市・教育委員会・市社会福祉協議会等へ依頼する。

令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化
事業名	
啓発活動による、大規模災害に対する備えの大切さの周知	
地域の課題（背景）	
・南海トラフ大地震の防災対策推進指定区域内にあり、大規模災害が危惧される。 ・養老山地の東裾野の扇状地にあるため、集中豪雨や台風による土石流が懸念される。 ・以上の危惧や懸念に対し、防災意識や各家庭における備えが不十分である。 令和4年2月に実施した防災アンケートの結果 （防災意識や各家庭の備えに関する大半の項目が、100点満点の10点台～30点台と極めて不十分な結果であった）	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○啓発活動の推進 ・防災かわら版 → 2ヶ月に1回発行 ・防災ポスター → 9月に更新 ・研修会の開催 ○自主防災組織への働きかけと提案 ○避難所の開設、運営方法の勉強会	
自助(自分でできること)	
・「自分の身は自分で守る」よう、地域住民によるコツコツ防災活動	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・避難所開設・運営に関する指導と助言	

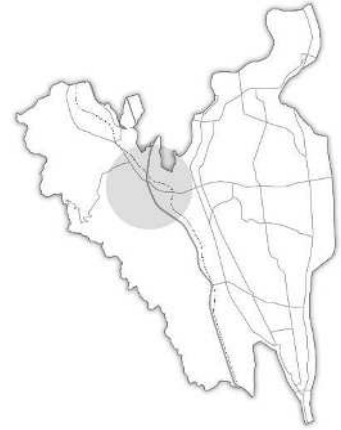
令和6年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の交流機会が少ない
事業名	
しもたどサロンの開催	
地域の課題（背景）	
・高齢化が年々進んでいる。 ・地域内のひとり暮らしの高齢者が多い。 ・自治会を超えた、他の方との交流機会が少ない。 ・地域内では、自治会区域のサロンがあり、活動しているが、サロン間での交流がない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・下多度地区全体を対象とする「しもたどサロン」を開催する。（時期未定） 地域の多くの高齢者の集いの場となるように、「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて実施する。 ・自治会区域で行われているサロンを通じて、広く呼びかけを行う。 ・新型コロナウイルス感染症は、第5類に変更後も一定の感染が見られる。令和6年度も慎重に判断しながら、早めに開催の判断をしていく。 ・高齢者が感染した場合、重症化することが多いことから予防のため、マスクの着用、手指の消毒等、リスクを極力少なくできるよう対策を講じて実施する。 ・食事に関しては、持ち帰り等、検討をしていく。 ・リーフレットを作成し、サロン等、参加の呼びかけを行う。 ・他地区のボランティア活動の内容を参考にする。	
自助(自分でできること)	
・地域住民との交流を図るため積極的に参加するとともに、近隣の高齢者にも参加を呼びかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・他地区での催し物の紹介や、ボランティア団体の紹介（市社協）	

9

城 山 地 区

【スローガン】

心ふれあう城山のまち
あなたの笑顔が私の幸せ

【城山地区の人口】

	海津市		城山地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	6,219人	5,013人
対人口比	100.0%	100.0%	15.8%	15.8%
年少人口	5,187人	2,783人	776人	493人
年少率	13.2%	8.7%	12.5%	9.8%
高齢者人口	8,494人	11,526人	1,451人	1,821人
高齢化率	21.6%	36.2%	23.3%	36.3%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	704人	935人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	11.3%	18.7%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【城山地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所城山支所	認定こども園庭田保育園		伊藤内科・神経科
海津市文化会館	こまの認定こども園		ひばりクリニック
海津市保健センター	アグリピア農場 (就労移行支援) (就労継続支援B型)	城山小学校	田中歯科クリニック
月見の里南濃 (道の駅)		城南中学校	中野歯科
南濃総合福祉会館ゆとりの森	オレンジ・ガーデン (デイサービス) (有料老人ホーム)		
羽根谷だんだん公園 (さぼう遊学館)			
南濃中部防災 コミュニティーセンター	海津市デイサービス センター南濃		
南濃交番	デイサービス輝		
南濃温泉「水晶の湯」	有料老人ホーム輝		
	有料老人ホーム輝イースト		

令和5年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	安全は城山地区住民の意識から（安全委員会）
------	-----------------------

事業名	推進方法	評価
子どもの見守りと、住民の防災意識の向上	登下校時の見守りパトロールをする。 （老人クラブ、PTAと共に）	○
	子ども110番の家の見直しと、協力依頼をする。 （区長、自治会長、PTAと共に）	○
	災害時の安否確認のため、自治会防災調査票（9区・16自治会）の調査・保管の確認をお願いする。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に） ア．災害時の安否確認調査票 イ．災害被害調査ウ．被害状況報告書	○
	災害に対する防災避難知識の講習会を開催する。 ・城山小学校体育館避難所開設訓練	○

現状および今後の方針
現状としては、交通安全指導員やPTA（スクールボランティア）のほか有志の方が通学路に立ち、見守り活動を行っている。 子ども110番の家を学校と相談して、今後も見直しをする。 今年は、避難所開設訓練を行った。来年は今年よりも、規模を大きく避難所開設訓練を実施したい。

重点課題	高齢者への多様な支援が必要である（福祉委員会）
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
高齢者支援サポート事業の推進	ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りをする。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に）	○
	ひとり暮らし高齢者のつどいを実施する。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団、食生活改善協議会と共に）	○
	高齢者の城山生活サポート事業を推進する。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、城山生活サポーターと共に）	○
	いきいきサロンの設立を進める。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に）	○

現状および今後の方針
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りが、民生委員児童委員・福祉推進委員・市社協職員の方々等の協力で行われている。 ・コロナ感染症が2類から5類になり、従来通りのひとり暮らし高齢者のつどいを実施した。 ・高齢者の小さな困りごとを支援する城山生活サポート事業は、順調に件数を伸ばしていることがサポーターの高齢化により離脱者が多くなり今後の課題となる。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	住民の健康づくり、地域交流の場づくりが必要である（体育委員会）
------	---------------------------------

事業名	推進方法	評価
住民の健康づくりと、スポーツレクリエーション大会の運営	子どもと共に楽しめる行事としてスポーツレクリエーション大会を実施する。 （スポーツクラブ、体育推進員、各種体育指導者と共に）	○
	三世代交流の「三世代なかよし玉入れ」を小学校運動会で実施する。 （区長、自治会長、PTA、小学校と共に）	△
	城山地区夏まつりの開催に合わせ、スポレクイベントで参加する。	○

現状および今後の方針	
・昨年に引き続きスポレク大会を開催し、中学生ボランティア12名を含め、約120名の参加を得て盛大に実施できた。 ・今年度から「城山の夏祭り」も再開され、種目を変更して盛大に開催することができた。 ・三世代交流事業は、運動会参加ができなかったため今年度も実施できなかった。”	

重点課題	青少年の健全育成が大切である（青少年委員会）
------	------------------------

事業名	推進方法	評価
青少年の健全育成	中学生ボランティアを募集し、共に活動する。（夏祭り、スポレク）	○
	独自の活動を行う。（親子史跡巡り）	○
	小・中学校との連携を深め、活動を支援する。	△
	様々な教育情報を収集し、今後の活動のあり方を検討する。	△

現状および今後の方針	
・小中学校へも働きかけて「わくわくチャレンジ親子史跡巡り」の実施や「夏祭りスポレク大会の中学生ボランティアの募集」を行うことができた。 ・新型コロナウイルス感染防止や熱中症対策をとりながら、魅力ある活動内容を工夫して次年度も同様の計画をすすめていきたい。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	城山住民の地域交流の場が少ない（地域振興委員会）
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
地域交流活動の推進	城山の夏まつりを開催する。 （区長、自治会長、各種団体長と共に）	○
	城山の夏まつりへの協力を呼びかける。	○
	各種地域行事やまつり等の成功に向けて研修する。 （区長、自治会長と共に）	○

現状および今後の方針
・コロナ禍が明けて、4年ぶりに「第8回城山夏祭り」を開催することができた。 約1,000人の人が足を運んでくれた。 ・今年からは、食べ物をキッチンカーにお願いし、行列ができるほどの賑わいだった。来年度も依頼する予定。 ・協力してくれたスタッフや中学生ボランティアに対する課題も多く見られたので、見直しを行い来年度も盛大に実施したい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	安全は城山地区住民の意識から（安全委員会）
事業名	
子どもの見守りと、住民の防災意識の向上	
地域の課題（背景）	
・通学路の安全面で心配なことが多くみられる。 ・交通安全や不審者対策などで、ボランティアが不足している。 ・災害時の安否確認のため、自治会ごとで名簿の準備が必要である。 ・多様な災害に対する防災避難知識の講習会の開催が必要である。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①登下校時の見守りパトロールをする。 （老人クラブ、PTAと共に） ②子ども110番の家の見直しと、協力依頼をする。 （区長、自治会長、PTAと共に） ③災害時の安否確認のため、自治会防災調査票（9区・16自治会）の調査・保管の確認をお願いする。（区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に） ア．災害時の安否確認調査票 イ．災害被害調査 ウ．被害状況報告書 ④災害に対する防災避難知識の講習会を開催する。 ・城山小学校体育館避難所開設訓練	
自助(自分でできること)	
・登下校時の見守りパトロールに協力する。 ・子ども110番の家の場所を再度確認をする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・子ども110番の家への更新手続きを依頼する。（申請・認定・看板）	

令和6年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者への多様な支援が必要である (福祉委員会)
事業名	
高齢者支援サポート事業の推進	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増えてきている。 ・高齢者の方で日常生活の困りごとが増えてきている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りをする。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に) ②ひとり暮らし高齢者のつどいを実施する。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団) ③高齢者の城山生活サポート事業を推進する。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、城山生活サポーターと共に) ④いきいきサロンの設立を進める。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に)	
自助(自分でできること)	
・近所の高齢者に対し、見守りや声かけをする。 ・近所の高齢者に小さな手助けをする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・認知症対策支援	

令和6年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	住民の健康づくり、地域交流の場づくりが必要である (体育委員会)
事業名	
住民の健康づくりと、スポーツレクリエーション大会の運営	
地域の課題（背景）	
・住民の健康づくりの機会が少ない。 ・子どもと共に楽しめる行事がない。 ・城山地区住民運動会がなくて、さびしい。 ・昨今、人と人の繋がりが疎遠である。（人と人の接点づくり）	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①子どもと共に楽しめる行事としてスポーツレクリエーション大会を実施する。 （スポーツクラブ、体育推進員、各種体育指導者と共に） ②三世代交流の「三世代なかよし玉入れ」を小学校運動会で実施する。 （区長、自治会長、PTA、小学校と共に） ③城山地区夏まつりの開催に合わせ、スポレクイベントで参加する。	
自助(自分でできること)	
・健康づくりの活動に進んで参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・レクリエーション用具の借用	

令和6年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	青少年の健全育成が大切である (青少年委員会)
事業名	
青少年の健全育成	
地域の課題（背景）	
・地域の活動に子どもの積極的な参加を呼びかける。 ・学校などと連携を図り、小中学生の健全育成を図る。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・中学生ボランティアを募集し、共に活動する。（夏祭り、スポレク） ・独自の活動を行う。（わくわくチャレンジ親子史跡巡り） ・小・中学校との連携を深め、活動を支援する。 ・様々な教育情報を収集し、今後の活動のあり方を検討する。	
自助(自分でできること)	
・多様な活動を通して子どもたちの参加を呼び掛け、子どもたちの健全育成を支援する。 ・地域の子どもの積極的に声をかける。（あったか言葉、挨拶など）	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・行政、学校、こども園などと連携を図る。	

令和6年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	城山住民の地域交流の場が少ない (地域振興委員会)
事業名	
地域交流活動の推進	
地域の課題（背景）	
・城山地区全体での地域交流活動が活発になってきているが、更に充実したものにしていきたい。 ・区や自治会ごとの行事や三世代交流の場がさらに増えるとよい。 ・城山地区夏まつりを実施するにあたって協力者をもっと増やしたい。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①城山の夏まつりを開催する。（区長、自治会長、各種団体長と共に） ②城山の夏まつりへの協力を呼びかける。 ③各種地域行事やまつり等の成功に向けて研修をする。 （区長、自治会長と共に）	
自助(自分でできること)	
・地域の交流活動に進んで参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

10

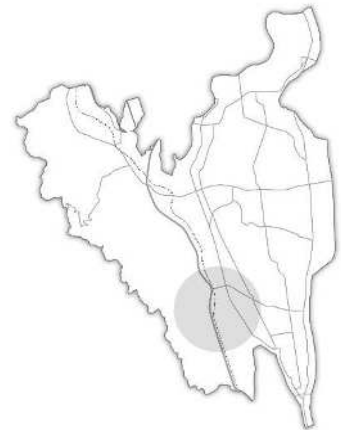
石津地区

【スローガン】

助け合い支えあう石津地区

【石津地区の人口】

	海津市		石津地区	
	2008年 4月1日	2024年 4月1日	2008年 4月1日	2024年 4月1日
人口	39,321人	31,815人	8,085人	6,558人
対人口比	100.0%	100.0%	20.6%	20.6%
年少人口	5,187人	2,783人	1,053人	521人
年少率	13.2%	8.7%	13.0%	7.9%
高齢者人口	8,494人	11,526人	1,695人	2,493人
高齢化率	21.6%	36.2%	21.0%	38.0%
後期高齢者人口	4,077人	6,007人	703人	1,376人
後期高齢化率	10.4%	18.9%	8.7%	21.0%



※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【石津地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所石津支所	石津認定こども園		可知医院
海津市消防署南濃分署	認定こども園石山保育園		大井耳鼻咽喉科
働く女性の家	クローバー (就労継続支援B型)	石津小学校	やまだ眼科クリニック
南濃地域防災センター			中尾皮フ科クリニック
	地域密着型特別養護老人ホーム 長寿の里・海津		野村クリニック
			森木医院
	デイサービスいろは		石川歯科
	まりすりハピリセンター		木村歯科医院
	香和ショートステイ		曽根歯科医院
	デイサービスよもぎ		南濃歯科
	ショートステイよもぎ		
	グループホーム南濃「福寿苑」		
	石津地区社協事務所		

令和5年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン		助け合い支え合う石津地区
重点課題		高齢者の移動手段の確保
事業名	推進方法	評価
高齢者移動サービス	・ボランティアの協力を得て、車両を使って送迎する。 ・ボランティアの高齢化が進んでいるので、世代交代を進める。 ・関係団体と連携したり、個別折衝などでボランティアの発掘を行う。 ・「石津地区社協だより」を利用して、公募による募集も行う。	○
現状及び今後の方針		
・ボランティアの高齢化が進み体調不良となり、ボランティアの確保が課題である。 ・関係団体と連携及び個人折衝でボランティアの確保に努める。 ・年度末の利用登録者100名。実施日数238日、利用数856回。 ・利用者の高齢化による課題が顕在化しており、対応を検討する必要がある。		
重点課題		高齢者のいこいの場が少ない
事業名	推進方法	評価
石津地区サロン運営事業	・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視して、早期に再開をしたい。 ・再開時は、「地区社協だより」、関係団体、個別連絡など幅広く周知する。 ・再開に向けた、ボランティア間の連携を確認する。 ・再開後の「朝市の再開」に向けた体制の確認をする。	○
現状及び今後の方針		
・令和5年6月に再開し、毎月開催した。 ・朝市の活性化を図る。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン		助け合い支え合う石津地区
重点課題	新型コロナウイルス感染症の中での 世代間ふれあい活動の減少と対応	
事業名	推進方法	評価
世代間交流推進事業	①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・境自治会、農業ボランティアと協力し、地区社協の有志も活動に参加する。	○
	②さつま芋作り体験活動 ・田鶴地区の農業ボランティアの指導で、地区の認定こども園（2園）の年長組園児と石津小学校1年生児童がさつま芋作り体験活動（苗植え、芋掘り、焼き芋パーティー）を行うのに、地区社協の有志も参加する。	○
	③福祉標語の募集 ・石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・優秀作品（12点）を表彰し、石津地区社協だよりに掲載する。	○
	④新しい地域交流活動の模索 ・来年度に開催予定の「石津小学校創立150年記念事業」に参画し、地域と小学校との交流事業に取り組む。	○
現状及び今後の方針		
計画通り、実施することが出来た。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン		助け合い支え合う石津地区
重点課題		子どもからお年寄りまで安心・安全暮らせる地域づくり
事業名	推進方法	評価
①スクールボランティア	・スクールボランティアと学校との連携について、積極的に関わっていく。 ・区長、自治会長と連携して地域の協力を働き掛ける。	○
②防犯パトロール、青色パトロール	・ボランティアの人数を増やして、パトロールの回数を前年度以上に増やす。 ・ボランティア同士の絆を深くし、仲間意識の高揚に努める。 ・警察署、行政との連携をより深め、パトロール対象の拡大を検討する。	○
③防災	・防災の必要性について住民の意識啓発に取り組む。 ・区、自治会が、実際の避難所を想定して避難訓練を行えるよう、支援体制を整える。	△
現状及び今後の方針		
①スクールボランティア ・今年度は、2名の退会と1名の入会があった。ボランティアの高齢化が進み、今後益々の減少傾向が続くと思われるため、事業が持続出来る仕組みづくりが必要である。 ・ボランティアの帰宅途中で軽い接触事故があり、ボランティアの安全確保についても啓発していきたい。 ②防犯パトロール、青色防犯パトロール ・活動は継続できているが、ボランティアの一部で高齢化による「リタイア」が発生するなど若返りが課題の一つ。 ・活動は継続し、充実させる。 ③防災 ・防災士とのつながりは保っているが、具体的な行動に結びつかなかった。 ・能登半島地震の経験に学び、実践的な防災活動に繋げる取り組みを計画する。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の移動手段の確保
事業名	
高齢者移動サービス	
地域の課題（背景）	
・当地域は高齢化が進んでおり、今後ますます重要になる事業であり、高齢者の生活基盤となる買い物や通院等について、移動の手段に困っている。 ・デマンドバス、巡回バスがあるが、利用するには、不便を感じる面が多い。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・ボランティアの高齢化が進んでいるので、世代交代を進める。 ・関係団体との連携及び個別折衝などでボランティアの発掘を行う。 ・サービス利用者受入れ時のルールの整備を図る。	
自助(自分でできること)	
・昼間独居者については、家族間の関係の希薄化が生じないよう、連携を目指す。 ・区長、自治会長、民生委員児童委員と連携し、利用者の状況を注視する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・参考となる情報の提供。 ・活動に関するPR。 ・必要経費に対する助成。	

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の憩いの場の提供
事業名	
石津地区サロン運営事業	
地域の課題（背景）	
・高齢化、独居、核家族化が進む地域であることを改めて認識する。 ・新型コロナウイルス感染症の収束後の外出控えが進み、地域の交流の場が減少した。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・令和5年6月から毎月1回（第4金曜日）定期的に行うことができるようになったが、新型コロナウイルス感染症拡大前の来場者数に達していない。そのため、以下の対策を計画する。 ①併設する「朝市」の出品内容を充実する。 ②他地域（市内・市外問わず）のサロン運営を視察するなど、運営の改善を図る。	
自助(自分でできること)	
・「地区社協だより」の掲載による広報と口コミにより参加者を集める。 ・「朝市」に協力してもらう農家との連携を更に図り、出品物の内容の向を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・市内、市外のサロン運営等の情報提供をお願いしたい。	

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域コミュニティの核である小学校との連携
事業名	
世代間交流推進事業	
地域の課題（背景）	
・家族、地域でのコミュニケーションを図る機会が減少している。 ・三世代交流となる活動や行事を実施しづらい社会状況にある。 ・小学校と地域の連携による「コミュニティースクール」活動に協力を求められている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・境自治会、農業ボランティアと協力し、地区社協の有志も活動に参加する。 ②さつま芋作り体験活動 ・田鶴地区の農業ボランティアの指導で、地区内の認定こども園（2園）の年長組園児と石津小学校1年生児童がさつま芋作り体験活動（苗植え、芋掘り、焼き芋パーティー）を行うのに、地区社協の有志も参加する。 ③福祉標語の募集 ・石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・優秀作品（12点）を表彰し、石津地区社協だよりに掲載する。 ④「コミュニティースクール」に参加し、地域の活動として取り組む。	
自助(自分でできること)	
・農業ボランティアなど、活動に協力してくれる仲間を募る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・特に新規事業である「コミュニティースクール」についての情報を繋いでほしい。	

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
スクールボランティア	
地域の課題（背景）	
・車社会となり、児童の登下校時の安全や、近年では変質者も各地で報告されている。また、ボランティアも高齢化し、活動の低下が懸念される。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・自治会や関係機関と連携を図り、人材確保を図る。 ・学校と協力し、児童の交通事故防止や地域の安全対策への意識の向上を図る。	
自助(自分でできること)	
・児童の登下校時の見守り活動。 ・メンバーでの情報共有や新しい人材の確保を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・地域の運転手への安全運転の啓発。 ・地域の方への活動への理解を深めるための周知や他地区での活動団体との情報交換会などを行ってほしい。	

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
地域安全（青色安全パトロールの実施）	
地域の課題（背景）	
空き家などへの「忍び込む」や空き巣などの犯罪の増加や小学校児童の下校時の安全確保への対策が必要な状況。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
青色防犯パトロールの実施で、安全対策に気を配っている地域であるとアピールすること。さらに高齢者の徘徊などが散見されるので、必要に応じた行方不明者の搜索への参加やゴミの不法投棄の発見で、行政等との協力関係の構築を行う。また、区・自治会との連携でボランティアの若返りと人数の増加が必要。	
自助(自分でできること)	
・児童の下校時を中心とした見守り活動とその活動中のゴミ不法投棄場所の発見など。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
警察情報の提供。	

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
災害対策	
地域の課題（背景）	
災害はいつ発生するか分からないが、そのうちいつか必ず発生することを前提に、区・自治会は災害発生時は地区内の住民の安全確保が第一義となることから、地域（小学校区）を俯瞰する災害対策が必要となる。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
防災士の資格を持つ方が増えている。防災士と連携をし、必要と思われる啓発活動を計画し、区・自治会に呼び掛け、具体的な活動につなげる。	
自助(自分でできること)	
・防災士との日常的なつながりの確保。 ・地区社協運営委員会での情報共有。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・市役所担当部署からの情報や物品の提供。	

令和6年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	地区社協の活動を広く周知する
事業名	
「地区社協だより」の発行	
地域の課題（背景）	
- 令和5年度までは、総務部会の広報活動として「石津地区社協だより」を発行。令和6年度からは、一つの事業として計画を策定する。 - 地区社協には様々な活動を通じて地域の福祉課題の解決の一助を担っているが、地区社協の活動状況を地域の方に知ってもらい、活動に参加してもらうことが必要。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
2か月に1回、「石津地区社協だより」を発行する。 - そのために編集体制を確立し、読みやすく親しみやすい紙面づくりに貢献する。	
自助(自分でできること)	
- 編集方針の確立と編集委員会の編成で紙面の充実を図る。 - 協賛企業を募り、自主財源を確保。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
情報の提供など、紙面づくりへの協力。	

関 係 資 料 等

資料1. 海津市地域福祉推進計画

資料2. 地区社会福祉協議会活動

計画の策定に当たって

計画策定の背景

近年、急速な少子高齢化や核家族化の進展、家庭や地域でお互いに助け合う相互扶助の低下、個人の価値観の多様化や地域のつながりづくりの希薄化など、地域を取り巻く環境は変容しつつあります。これにより、地域ではひきこもり、孤独死、生活困窮者、ヤングケアラー、ダブルケア、8050 問題などの新たな福祉課題が発生しており、平準化された既存サービスでは対応しきれない制度の狭間で課題を抱えた方が適切な公的支援を受けられないという問題が起きています。

また近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出や地域での活動が制限され、従来の様々な活動が停滞し社会的な孤立感が高まるなど、市民の生活に大きな影響を及ぼしています。このような中、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、福祉制度によるサービスのみで支えることは難しく地域住民や関係団体、社会福祉協議会が共通の認識のもと協働して、様々な支え合いや助け合いの活動に取り組んでいくことが必要となっています。

国においては、平成 28（2016）年 7 月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部」を設置し、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として地域社会に参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、地域住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指しています。

地域福祉の基本的な考え方

「地域福祉」とは、高齢者や障がい者、子育て家庭、生活困窮者が、年齢や属性に関わらず、それぞれの地域においてだれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民・地域を中心とした様々な主体が協働のもと、地域で支援を必要としている方の様々な困りごとや不安を、ともに支え合い、助け合いながら、市民一人ひとりが地域における福祉課題の解決に向けて取り組む考え方です。地域福祉を推進するためには、自分ができることは自分で取り組み社会参加に向けての力を高める「自助」、地域住民同士が支え合う「互助」、社会保障制度等の「共助」、行政による「公助」が連携・協力によって解決する取り組みが必要です。本市では、「互助」、「共助」は住民が互いに支え合うという理念が共通していることから、本計画では「互助・共助」という表記をします。

これまでの策定状況と新たな計画

これまで海津市では行政としての施策や考え方を位置づけた「地域福祉計画」と、市社協の取り組みを位置づけた「地域福祉活動計画」に基づき、3期にわたって地域福祉を推進してきました。

「地域福祉計画」は、社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が行政計画として策定するものであり、「地域の助け合いによる福祉（地域福祉）」を推進するために、人と人のつながりを基本として、「顔の見える関係づくり」、「ともに生きる社会づくり」を目指すための「理念」と「仕組み」をつくる計画です。

また、「地域福祉活動計画」は、社会福祉法第109条の規定に基づく民間組織である社会福祉協議会が活動計画として策定するものであり、「すべての住民」、「地域での福祉活動を行う者」、「福祉事業を営業者」が相互に協力して、地域福祉の推進を目的とする実践的な活動・行動計画です。

複雑化・複合化した地域課題が増加する中、現行の仕組みでは対応しきれない多様な生活課題に対応するため、市と市社協の連携を深めながら、実効性の高い施策を展開する必要があります。そのため、新たな計画では、これまでそれぞれに策定していた地域福祉計画と地域福祉活動計画を統合し、ひとつの「地域福祉推進計画」として策定します。

計画の位置づけ

本計画は、海津市総合計画を上位計画とし、福祉の各分野における共通事項を定め、他の分野別計画の上位に位置づけます。また、本計画においては、社会福祉法第106条の5に基づき「重層的支援体制整備事業実施計画」に加え、成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条に基づき「成年後見制度利用促進計画」、再犯の防止等の推進に関する法律第8条に基づき「再犯防止推進計画」を包含する計画として策定します。加えて、本計画は、国の示す「市町村地域福祉計画ガイドライン」に基づき、「子ども・子育て支援事業計画」、「介護保険事業計画」、「障がい者計画」などの地域福祉の視点や理念・方針・推進方向を明示し、地域における展開を総括する役割を持ちます。

計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。また、社会環境等の変化に対応し、必要が生じた場合にはその都度見直します。

地域福祉推進計画の基本理念と施策体系

基本理念

つながりの輪で だれもが笑顔あふれるまち かいつ

本市では、市民一人ひとりが助け合いの心を持ち、年齢や障がいの有無、住んでいる地域に関わらず、あらゆる主体がつながり、共に支え合うことで、だれもが地域において自分らしく笑顔で暮らせるまちを目指していきます。

基本目標1 地域福祉意識の向上

施策	施策の方向
1 人権尊重の推進	人権問題を正しく理解するため、講演・研修をはじめ、広報を通じて人権啓発活動を行います。
2 支え合う意識の醸成	子どものころから支え合う意識を育むことができるよう、学校と地域が連携して、福祉教育や地域活動への積極的な参加を促進します。
3 情報提供の充実	様々な情報媒体を活用して、福祉に関する情報をわかりやすく発信します。

基本目標2 地域福祉活動の推進

施策	施策の方向
1 地域福祉のネットワークづくり	地域における見守りや、ネットワークづくりを支援し、市・市社協が連携して複雑化・複合化する地域課題に対応できる支援体制を整備します。
2 地域福祉の担い手づくりの推進	担い手を発掘するために、情報を発信するとともに、ボランティアセンターの強化を図ります。また、各種講座等を開催し、地域のリーダーを育成します。
3 交流・つながる場づくりの推進	市民の様々な悩みごとや困りごとが早期相談や支援につながるように、地域における声かけやあいさつを促進するとともに、幅広い世代が交流できる機会を増やすことで、顔の見える地域づくりを推進します。
4 生活困窮者への支援の充実	生活困窮者に対し、生活福祉資金や食料支援を行うことにより自立支援を推進し、生活を支えるとともに、貧困・孤立した子どもに対しても、学習支援や子どもの居場所づくりを推進します。
5 権利擁護の支援 【成年後見制度利用促進計画】	権利擁護が必要な人に対し、相談業務、後見申立費用や報酬助成など、成年後見制度の利用促進に向けた支援を行います。また、包括的な支援を行うため、中核機関を中心とした権利擁護ネットワークを構築します。
6 再犯防止・立ち直り支援 【再犯防止推進計画】	再犯によって市民が犯罪被害に遭うことを防止し、安心・安全に暮らせる社会とするため、地域と行政、関係団体が連携し、犯罪等をした人が地域で孤立することなく生活を送ることができるよう、切れ目のない支援を行います。

基本目標3 地域福祉の環境づくり

施策	施策の方向
1 相談体制の充実	市民からの相談を幅広く受け止められる包括的支援体制を構築します。
2 福祉サービスの充実	住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療・保健・福祉・介護サービスの充実を図ります。
3 住みよい環境づくり	だれもが暮らしやすいまちを目指し、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化を進めるとともに、安全な移動手段を確保します。
4 防災・防犯の推進	安心して暮らせる地域を目指し、地域の防災体制の強化を図るとともに、防犯対策を推進します。

5つの重点施策

本計画では、本市の課題に対応すべく特に推進していく5つの施策を「重点施策」として定めています。

1 多機関協働体制の構築

複雑化・複合化した地域課題に対応するため、多機関連携の中核を担う協働体制を構築し、支援関係機関の役割分担や支援の方向性の整理を行います。

2 地域でのつながりづくり

すべての市民が隣近所や地域とのつながりを継続的に持ち続けられるよう、つどいの場の確保・充実を図り、助け合い・支え合いのコミュニティづくりを行います。

3 地域福祉の担い手育成

地域の担い手を発掘・育成するため、地域福祉コーディネーターを配置し、各種ボランティア養成講座を行うとともに、ボランティアセンターを通じて、市民や団体のボランティア登録を推進します。

また、福祉広報活動により市民の福祉意識の高揚と相互扶助意識の醸成を図ります。

4 相談・支援体制の充実

市民からの様々な相談を幅広く受け止め、利用可能な福祉サービスを提供する支援機関につなげるため、包括的な相談支援体制を整備します。

また、社会的孤立を防ぐため、訪問等を通じて継続的支援を行います。

5 移動支援

高齢者等の日常生活における移動手段を確保するため、既存の移送サービスが継続して提供されるよう、地域の人材発掘・育成、運営補助などの支援を行います。

また、新たな移送サービスが開始されるよう、立ち上げ支援を行います。

1. 地区社会福祉協議会（地区社協）とは・・・

目 的

地区社協は、住民一人ひとりが、自ら進んで、生きがいをもって、健康で安心して暮らせる、地区の福祉活動を進めることを目的とします。

活 動 範 囲

海津市では、小学校区を単位としています。

組 織

地区社協は、区・自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、ボランティア、その他の福祉関係団体などから選出された方々によって構成される住民組織です。

それぞれの地区によって組織体制や関わる方は多少違ってきます。

2. 地区社協の役割

○住みよいまちづくりの推進役

子育て、高齢者とのふれあい、障がい者支援、青少年をとりまく環境、地域の連帯意識など様々な問題について、住民がともに考え行動する組織です。

○各種団体の協力体制の場づくり

地域内で活動している各種団体の連携により、多様化した問題の解決を図ります。

○ボランティア活動の輪を広げる活動

各種事業や育成講座の開催を通じて、子どもから高齢者までを対象にボランティア意識の向上を図り、活動の輪を広めます。



▲城山地区社協の生活支援活動

3. 市社協と地区社協の関係

市社協と地区社協は、対象とする範囲は違いますが、地域における福祉課題を解決するため、住民が主体となって活動するという基本的な目標は共通しています。また地区社協は市社協とともに地域福祉の重要な組織です。したがって、市社協と地区社協は緊密に連携して活動を進めていく必要があります。

市社協は、情報提供や連絡調整を行うなどして地区社協の活動を支援します。

4. 地区社協設立の経過

設立年月日	地 区 名
平成22年 3月25日 3月27日 4月17日 10月 7日	今尾地区社会福祉協議会 海西地区社会福祉協議会 高須地区社会福祉協議会 吉里地区社会福祉協議会
平成23年 1月23日	石津地区社会福祉協議会
平成25年 1月19日 4月26日 6月28日	下多度地区社会福祉協議会 西江地区社会福祉協議会 大江地区社会福祉協議会
平成26年 4月 4日	東江地区社会福祉協議会
平成27年 6月21日	城山地区社会福祉協議会

5. 地区社会福祉協議会連絡会

各地区社協の代表者が集い、相互の情報交換と、運営に関する研修及び調査等を行うことを目的に「地区社協連絡会」を開催しています。

連絡会は、各地区の会長、副会長で構成されています。また、必要に応じて各地区社協の役員も参加します。



▲地区社協連絡会の様子

6. 地区社協の活動

地区社協では、各地区の福祉課題などに応じて、様々な事業を自主的に企画・実施します。

活 動 例

○地区福祉座談会、地区福祉懇談会

地区の福祉課題について、多くの方が意見交換をし、課題の発見や活動の推進を行います。

○スクールボランティア

児童・生徒の登下校時の見守りを行います。

○友愛ふれあい訪問

見守りが必要と思われる方に対して、困りごとがないかを聞くなどして、健康状態や安否の確認をします。

○広域ふれあいいきいきサロン

集会所などに、高齢者や障がい者、子育てをしている方などが集まり、話をしたりレクリエーションを楽しむことで、仲間づくりを行います。

○生活支援活動

地域住民の日常生活の困りごとを把握し、住民同士が助け合う仕組みづくりを行います。（例：ゴミ出し、草取り、庭木の剪定、買い物代行など）

○高齢者送迎サービス

公共交通機関を使って外出が困難と思われる高齢者などに対し、住民の協力を得て送迎ボランティア活動を行います。

○三世代交流事業の実施

子ども会や育成会、老人クラブなど様々な世代間の交流を通じ、地区の輪を広げます。

○会食会

ひとり暮らし高齢者などを対象に、地区ごとに敬老会やお花見会などを行います。

○地区防災活動

○広報紙の発行

○ボランティアのつどい

○研修会・講演会 など



▲西江地区社協 高齢者外出・買い物支援サービス

海津市地域福祉活動計画

**令和6年度
地区福祉活動計画**

◆令和6年7月◆

発行 社会福祉法人 海津市社会福祉協議会

〒503-0411 海津市南濃町駒野827番地1

(海津市南濃総合福祉会館 ゆとりの森)

TEL:0584-55-2300 FAX:0584-55-1990



海 津 市 地 域 福 祉 活 動 計 画

令和6年度 地区福祉活動計画

社会福祉法人 海津市社会福祉協議会